

上峰町文化財調査報告書第33集

上峰町内遺跡確認調査Ⅱ

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
—平成6年度～平成10年度—

2011年3月

上峰町教育委員会

上峰町内遺跡確認調査Ⅱ

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
—平成6年度～平成10年度—



2011年3月

上峰町教育委員会

序

従来、上峰町は「遺跡の宝庫」と言われてきました。北部の脊振山系、その南麓から派生し南北に延びる洪積世丘陵と谷、さらに有明海へと続く沖積平野と変化に富んだ地形を含む町域には、いたるところに先人たちの暮らしの足跡が刻み込まれています。教育委員会では、こうした人々の暮らしの足跡、歴史的資産を保存活用し、将来へ継承していくために、開発と文化財の保護との調整に努めてまいりました。

近世以来の純農村集落の面影を色濃く残してきた上峰町は、昭和40年代後半から「農工併進のまちづくり」を理念に掲げ、工業団地の整備による大規模工場の誘致、農業基盤整備事業の実施とまちづくりを進めてまいりました。町の中央を国道34号線が東西に横断し、ここから、福岡県久留米市へは県道が通るという恵まれた交通環境に位置しており、佐賀市や鳥栖市、久留米市へも最適な通勤圏にあるところから、近年人口も着実に伸び、ベッドタウンとして発展してまいりました。これに伴い、各種商業施設、事業所等の町内進出も相次ぎ、上峰町は平成元年の町制施行以来、この20年間で近代的な田園都市へと大きく変貌を遂げました。

本書は、上峰町内の埋蔵文化財の保護と開発との調整を図るために上峰町が平成元年度より国庫補助事業の適用を受け実施してまいりました町内遺跡確認調査の報告書第2冊であります。この開発に伴う町内遺跡確認調査の実施によって多くの遺跡が破壊、消滅をまぬかれ保護されました。この報告書を学術的な資料として、また今後の埋蔵文化財保護と開発との調整を図るための資料として役立てていただければ幸いです。

なお、この町内遺跡確認調査にあたって、ご指導、ご協力をいただきました佐賀県教育委員会、開発事業主体者をはじめ、関係各位に対し深く感謝申し上げます。

平成23年3月

上峰町教育委員会

教育長 吉田 茂

例　　言

1. 本書は、平成元年度から国庫補助事業として、上峰町内で実施してきた町内遺跡埋蔵文化財確認調査のうち平成6年度から平成10年度に実施した埋蔵文化財確認調査の報告書である。
2. 本書は、平成22年度の国庫補助事業により、上峰町教育委員会が作成、刊行したものである。
3. 町内遺跡確認調査は、上峰町教育委員会が実施した。
4. 現場での発掘作業は、重機により表土剥ぎを行い、調査員の指示により発掘作業員が精査し、遺構・遺物の有無を確認した。
5. 現場での図面、写真による記録作業は、調査員が行った。
6. 遺構などの現場における写真撮影及び出土遺物の写真撮影は、調査員が行った。
7. 調査後の出土遺物、記録類の簡単な整理作業は、当該年度にそれぞれ実施した。
8. 本書中の挿図・写真図版などの作成作業は、調査員の指示により、整理作業員が行った。
9. 本書の執筆・編集は、原田大介が行った。
10. 本報告書に係る確認調査で出土した全ての遺物及び現場で作成した図面・写真・その他の記録類は、上峰町教育委員会で保管している。

凡　　例

1. 「確認調査」・「試掘調査」の用語については、広くは遺跡の範囲内外を基準に「確認調査」・「試掘調査」と区分して取り扱われているが、本書では「確認調査」と統一し表記している。
2. 確認調査番号については、年度ごとに平成をあらわす「H」、年度を表す「数字」、ハイフンの後に一連の番号を付して、調査番号としている。本書中、各年度調査位置図・各年度実施確認調査一覧表・各年度の報文中の調査番号は一致する。
例) 平成6年度に2番目に実施した○○遺跡確認調査　　H6-2　○○遺跡
3. 本文・挿図中の方位については、全て座標北を基準としている。
4. ここ数年来の市町村合併により、上峰町周辺の町村も合併が進み町村名が変更になっているが、本書では、一部を除き、旧来の名称を使用している。
5. 「調査後の措置」については、本文中の標記は最終結果を記載したが、各年度の一覧表中の標記は当該年度末時点での状況を記載している。

調査組織

平成 6 年度

調査主体 上峰町教育委員会

調査事務局	総括野口國雄	上峰町教育委員会	教育長
事務主任	馬場英孝	"	教育課長
経費執行	白瀬博己	"	社会教育係員
	原田大介	"	社会教育係員
	鶴田浩二	"	"
調査組織	調査員 原田大介	"	社会教育係員
	鶴田浩二	"	"

調査指導

佐賀県教育委員会

平成 7 年度

調査主体 上峰町教育委員会

調査事務局	総括野口國雄	上峰町教育委員会	教育長
事務主任	江頭典雄	"	教育課長
経費執行	白瀬博己	"	社会教育係員
	原田大介	"	社会教育係員
	鶴田浩二	"	"
調査組織	調査員 原田大介	"	社会教育係員
	鶴田浩二	"	"

調査指導

佐賀県教育委員会

平成 8 年度

調査主体 上峰町教育委員会

調査事務局	総括野口國雄	上峰町教育委員会	教育長(～平成 8 年 10 月 20 日)
	江頭典雄	"	教育長職務代理者 (平成 8 年 10 月 21 日～平成 8 年 11 月 20 日)
	鶴田浩	"	教育長 (平成 8 年 11 月 21 日～平成 9 年 1 月 4 日)
	江頭典雄	"	教育長職務代理者 (平成 9 年 1 月 6 日～平成 9 年 2 月 4 日)
	古賀一守	"	教育長(平成 9 年 2 月 5 日～)
事務主任	江頭典雄	"	教育課長
経費執行	白瀬博己	"	社会教育係員
	原田大介	"	社会教育係員
	鶴田浩二	"	"
調査組織	調査員 原田大介	"	社会教育係員

鶴田浩二 上峰町教育委員会 社会教育係員
調査指導 佐賀県教育委員会

平成 9 年度

調査主体 上峰町教育委員会
調査事務局 総括 古賀一守 上峰町教育委員会 教育長
事務主任 江頭典雄〃 教育課長
経費執行 原田大介〃 文化係長
鶴田浩二〃 文化係員
調査組織 調査員 原田大介〃 文化係長
鶴田浩二〃 文化係員
調査指導 佐賀県教育委員会

平成 10 年度

調査主体 上峰町教育委員会
調査事務局 総括 古賀一守 上峰町教育委員会 教育長(～平成 11 年 3 月 9 日)
江頭典雄〃 教育長職務代理者(平成 11 年 3 月 10 日～3 月 31 日)
事務主任 江頭典雄〃 教育課長
経費執行 原田大介〃 文化係長
鶴田浩二〃 文化係員
調査組織 調査員 原田大介〃 文化係長
鶴田浩二〃 文化係員
調査指導 佐賀県教育委員会

整理作業参加者

江崎愛子、島美保子(平成 22 年度 整理作業員)

目 次

序

例言・凡例

調査組織・整理作業参加者

I.	上峰町の位置と環境	1
1.	上峰町の位置	1
2.	歴史的環境	1
II.	調査の概要	6
1.	調査に至る経緯	6
2.	調査の方法	6
III.	平成 6 年度の調査	9
H6-1	坊所城跡(1)	12
H6-2	新立古墳群	13
H6-3	外記遺跡(1)	14
H6-4	杉寺遺跡	15
H6-5	坊所城跡(2)	16
H6-6	樅寺遺跡	17
H6-7	堤三本柳遺跡	18
H6-8	外記遺跡(2)	19
H6-9	周知外 切通地区	21
IV.	平成 7 年度の調査	23
H7-1	坊所城跡	26
H7-2	周知外 下津毛地区	27
H7-3	杉寺遺跡	28
H7-4	周知外 下坊所地区	29
H7-5	三上遺跡	30
H7-6	樅寺遺跡	31
H7-7	坊所五本谷遺跡(1)	32
H7-8	堤三本松遺跡	33
H7-9	坊所五本谷遺跡(2)	34
H7-10	一本谷遺跡	35
H7-11	周知外 上坊所地区	36
H7-12	坊所五本谷遺跡(3)	37
V.	平成 8 年度の調査	39
H8-1	周知外 上坊所地区	43
H8-2	三上遺跡(1)	44
H8-3	周知外 切通地区	45
H8-4	周知外 下坊所地区(1)	46

H8-5	坊所城跡	47
H8-6	三上遺跡(2)	48
H8-7	坊所二本松遺跡	49
H8-8	周知外 下津毛地区(1)	50
H8-9	三上遺跡(3)	51
H8-10	周知外 下津毛地区(2)	52
H8-11	三上遺跡(4)	53
H8-12	周知外 下坊所地区(2)	54
H8-13	三上遺跡(5)	55
H8-14	周知外 下坊所地区(3)	56
H8-15	坊所一本谷遺跡	57
H8-16	杉寺遺跡	58
 VI. 平成 9 年度の調査		59
H9-1	周知外 鳥越地区	64
H9-2	坊所二本谷遺跡(1)	65
H9-3	栗山遺跡	66
H9-4	三上遺跡	67
H9-5	周知外 上坊所地区(1)	68
H9-6	11 坊所一本谷遺跡(1)	69
H9-7	12・13 谷渡古墳群(1)	70
H9-8	周知外 上坊所地区(2)	71
H9-9	坊所一本谷遺跡(2)	72
H9-10	周知外 下津毛地区	73
H9-14	谷渡古墳群(2)	74
H9-15	坊所二本谷遺跡(2)	75
H9-16	周知外 星形原地区	76
H9-17	周知外 下坊所地区	78
H9-18	谷渡古墳群(3)	79
H9-19	周知外 谷渡地区	80
H9-20	杉寺遺跡	81
 VII. 平成 10 年度の調査		83
H10-1	周知外 下津毛地区(1)	86
H10-2	周知外 上坊所地区	87
H10-3	三上遺跡	88
H10-4	谷渡古墳群	89
H10-5	杉寺遺跡	90
H10-6	周知外 下津毛地区(2)	91
H10-7	鎮西山古墳分布測量調査	92

挿図目次

Fig. 1 上峰町町内遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)	2
2 上峰町遺跡地図 (1/50,000)	7
3 平成 6 年度 確認調査位置図 (1/50,000)	11
4 坊所城跡(1) (1/5,000)	12
5 新立古墳群 (1/5,000)	13
6 外記遺跡(1) (1/5,000)	14
7 杉寺遺跡 (1/5,000)	15
8 坊所城跡(2) (1/5,000)	16
9 横寺遺跡 (1/5,000)	17
10 堤三本柳遺跡 (1/5,000)	18
11 外記遺跡(2) (1/5,000)	19
12 周知外 切通地区 (1/5,000)	21
13 平成 7 年度 確認調査位置図 (1/50,000)	25
14 坊所城跡 (1/5,000)	26
15 周知外 下津毛地区 (1/5,000)	27
16 杉寺遺跡 (1/5,000)	28
17 周知外 下坊所地区 (1/5,000)	29
18 三上遺跡 (1/5,000)	30
19 横寺遺跡 (1/5,000)	31
20 坊所五本谷遺跡(1) (1/5,000)	32
21 堤三本松遺跡 (1/5,000)	33
22 坊所五本谷遺跡(2) (1/5,000)	34
23 一本谷遺跡 (1/5,000)	35
24 周知外 上坊所地区 (1/5,000)	36
25 坊所五本谷遺跡(3) (1/5,000)	37
26 平成 8 年度 確認調査位置図 (1/50,000)	42
27 周知外 上坊所地区 (1/5,000)	43
28 三上遺跡(1) (1/5,000)	44
29 周知外 切通地区 (1/5,000)	45
30 周知外 下坊所地区(1) (1/5,000)	46
31 坊所城跡 (1/5,000)	47
32 三上遺跡(2) (1/5,000)	48
33 坊所二本松遺跡 (1/5,000)	49
34 周知外 下津毛地区(1) (1/5,000)	50
35 三上遺跡(3) (1/5,000)	51

Fig. 36 周知外 下津毛地区(2) (1/5,000)	52
37 三上遺跡(4) (1/5,000)	53
38 周知外 下坊所地区(2) (1/5,000)	54
39 三上遺跡(5) (1/5,000)	55
40 周知外 下坊所地区(3) (1/5,000)	56
41 坊所一本谷遺跡 (1/5,000)	57
42 杉寺遺跡 (1/5,000)	58
43 平成 9 年度 確認調査地位置図 (1/50,000)	63
44 周知外 烏越地区 (1/5,000)	64
45 坊所二本谷遺跡(1) (1/5,000)	65
46 栗山遺跡 (1/5,000)	66
47 三上遺跡 (1/5,000)	67
48 周知外 上坊所地区(1) (1/5,000)	68
49 坊所一本谷遺跡(1) (1/5,000)	69
50 谷渡古墳群(1) (1/5,000)	70
51 周知外 上坊所地区(2) (1/5,000)	71
52 坊所一本谷遺跡(2) (1/5,000)	72
53 周知外 下津毛地区 (1/5,000)	73
54 谷渡古墳群(2) (1/5,000)	74
55 坊所二本谷遺跡(2) (1/5,000)	75
56 周知外 星形原地区 (1/5,000)	76
57 周知外 下坊所地区 (1/5,000)	78
58 谷渡古墳群(3) (1/5,000)	79
59 周知外 谷渡地区 (1/5,000)	80
60 杉寺遺跡 (1/5,000)	81
61 平成 10 年度 確認調査地位置図 (1/50,000)	85
62 周知外 下津毛地区(1) (1/5,000)	86
63 周知外 上坊所地区 (1/5,000)	87
64 三上遺跡 (1/5,000)	88
65 谷渡古墳群 (1/5,000)	89
66 杉寺遺跡 (1/5,000)	90
67 周知外 下津毛地区(2) (1/5,000)	91
68 鎮西山古墳分布測量調査 (1/5,000)	92

表 目 次

Tab. 1 平成 6 年度 町内遺跡確認調査一覧表	10
2 平成 7 年度 町内遺跡確認調査一覧表	24
3 平成 8 年度 町内遺跡確認調査一覧表	40
4 平成 9 年度 町内遺跡確認調査一覧表	60
5 平成 10 年度 町内遺跡確認調査一覧表	84
報告書抄録	

図 版 目 次

PL. 1 坊所城跡(1) №3 試掘溝	12
2 新立古墳群 作業状況	13
3 外記遺跡(1) №1 試掘溝	14
4 杉寺遺跡 №3 試掘溝 遺構検出状況	15
5 坊所城跡(2) 遺構検出状況	16
6 横寺遺跡 №3 試掘溝 遺構検出状況	17
7 堤三本柳遺跡 №9 試掘溝	18
8 外記遺跡(2) 作業状況	20
9 外記遺跡(2) №6 試掘溝 遺構検出状況	20
10 周知外 切通地区 調査地全景	21
11 坊所城跡 遺構検出作業状況	26
12 周知外 下津毛地区 作業状況	27
13 杉寺遺跡 №1 試掘溝 遺構検出状況	28
14 周知外 下坊所地区 調査地全景	29
15 三上遺跡 作業状況	30
16 横寺遺跡 №3 試掘溝 遺構検出状況	31
17 坊所五本谷遺跡(1) №1」試掘溝	32
18 堤三本松遺跡 調査地全景	33
19 坊所五本谷遺跡(2) 調査地近景	34
20 一本谷遺跡 調査地遠景	35
21 周知外 上坊所地区 調査地全景	36
22 坊所五本谷遺跡(3) 作業状況	37
23 周知外 上坊所地区 調査地全景	43
24 三上遺跡(1) 調査地全景	44
25 周知外 切通地区 調査地全景	45
26 周知外 下坊所地区(1) 調査地全景	46

PL.27	坊所城跡 作業状況	47
28	三上遺跡(2) 作業状況	48
29	坊所二本松遺跡 No.2 試掘溝 遺構検出状況	49
30	周知外 下津毛地区(1) 作業状況	50
31	三上遺跡(3) 作業状況	51
32	周知外 下津毛地区(2) 調査地近景	52
33	三上遺跡(4) 作業状況	53
34	周知外 下坊所地区(2) 作業状況	54
35	三上遺跡(5) 作業状況	55
36	周知外 下坊所地区(3) 調査地遠景	56
37	坊所一本谷遺跡 調査地全景	57
38	杉寺遺跡 作業状況	58
39	周知外 烏越地区 調査地遠景	64
40	坊所二本谷遺跡(1) 作業状況	65
41	栗山遺跡 作業状況	66
42	三上遺跡 調査地全景	67
43	周知外 上坊所地区(1) 調査地近景	68
44	坊所一本谷遺跡(1) 遺構検出状況	69
45	谷渡古墳群(1) 調査地全景	70
46	周知外 上坊所地区(2) 調査地近景	71
47	坊所一本谷遺跡(2) 作業状況	72
48	周知外 下津毛地区 作業状況	73
49	谷渡古墳群(2) 作業状況	74
50	坊所二本谷遺跡(2) 作業状況	75
51	周知外 屋形原地区 古墳石室確認状況	77
52	周知外 屋形原地区 包含層遺物出土状況	77
53	周知外 下坊所地区 作業状況	78
54	谷渡古墳群(3) 作業状況	79
55	周知外 谷渡地区 調査地遠景	80
56	杉寺遺跡 遺構検出作業状況	81
57	周知外 下津毛地区(1) 作業状況	86
58	周知外 上坊所地区 調査地遠景	87
59	三上遺跡 作業状況	88
60	谷渡古墳群 作業状況	89
61	杉寺遺跡 遺構検出状況	90
62	周知外 下津毛地区(2) 作業状況	91
63	領西山古墳分布測量調査 作業状況	63

I. 上峰町の位置と環境

1. 上峰町の位置 (Fig. 1)

佐賀県三養基郡上峰町は、佐賀県東部の穀倉地帯である佐賀平野のほぼ中央、三養基郡の西端に位置しており、東部は同郡みやき町（旧中原町・旧北茂安町）と、南部は同郡みやき町（旧三根町）と、西部は神埼郡吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）と境を接している。また、この神埼郡との境界は、古代以来の三根郡との郡界を踏襲しており、現在も町のほぼ中央を東西に横断する国道34号線付近の旧三田川町と境を接する地区は郡境と呼称されている。

鳥栖市から佐賀郡大和町に至る佐賀県東部には、北部に背振山地、その南麓に発達する洪積世丘陵、さらに南部には有明海へと続く沖積平野が展開するという、変化に富んだ地形が発達している。なかでも、山麓部から沖積平野部へ移行する部分に発達する洪積世丘陵は、山麓部に源を発し有明海へと南流する大小の河川によって浸食され北から南へ延びる舌状を呈した段丘を数多く形成している。そして、これらの段丘は古くから人々の生活の場として利用され、段丘上には数多くの遺跡が分布し、遺跡数、内容ともに県内でも有数の地域となっている。

そのようななか、南北に細長い町域をもつ上峰町においても、北部に山麓部、中央部に洪積世丘陵部、南部に沖積平野部と、この佐賀県東部の特徴的な地形が展開しており、とくに中央部に発達する洪積世丘陵地域を中心に遺跡の分布が知られ、古くから「遺跡の宝庫」と呼ばれてきた。

2. 歴史的環境 (Fig. 1)

上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観すると、前述のとおり、山麓部から洪積世丘陵部におよぶ一帯が古くから人々の生活の舞台となっており、山麓部及び各段丘上には、現在、遺跡の存在が知られ、県内においてもとくに弥生時代遺跡を中心に遺跡の分布密度が高い地域となっている。沖積地を望む丘陵部のほとんどが、各時代の集落あるいは墓域として占有され、とりわけ、弥生時代以降の遺跡を縄文時代以前の遺跡と比較すると、量的にも、質的にも爆発的に増加、充実する。銅鐸の鉄型を出土した鳥栖市安永田遺跡¹⁾、約400基の甕棺墓が検出された中原町蛭方遺跡²⁾、埋納された12本の銅矛を出土した北茂安町検見谷遺跡³⁾、甕棺墓から舶載鏡を出土した神埼郡東脊振村三津永田遺跡⁴⁾、近年の工業団地建設に先立つ調査で貴重な遺構、遺物が検出された神埼郡の神埼・三田川・東脊振の2町1村にまたがる吉野ヶ里遺跡⁵⁾など多くの著名な集落遺跡、墳墓群が知られ弥生時代の「クニ」あるいは「ムラ」単位の集団の存在が想定されるに至っている。このようななか、南北約12km、東西約3kmと南北に細長い町域を持つ本町においても同様に、町の北部から中央部を占める洪積世段丘上に弥生時代を中心に各時代の遺跡が分布している。

先土器時代の遺跡についてみると、各段丘で層序が異なる本地域においては本格的な調査がなされていないのが現状で、断片的な遺物の出土、採取にとどまっている。町内では、平成4年度の県営農業基盤整備事業に伴う八幡遺跡の調査において縄石刀1点とこの時期のものと考えられる石器類が少量出土しているが、これが発掘調査における主な出土例である⁶⁾。周辺地域では、神埼郡三田川町との境界に位置する二塚山丘陵の三田川町側からナイフ形石器の採取例が報告されている⁷⁾。また、平成5年度の県営農業基盤整備事業に伴う八幡遺跡下層における阿蘇4火碎跡と埋没林に係る調査において、先土器時代の年代示標となっている姶良-Tn火山灰（AT）の含有ピークが、通常の丘陵上の埋蔵文化財調査において遺構検出面としている「地山」の表層を構成する黄褐色風積土層の最上部付近、アカホヤ含有層のやや下部にて検出されている⁸⁾。



上地町	1 猿丸山古墳群	12 塘六本街道	24 池田道跡	47 西密水道路	58 長坂町
2 鹿の山山地	13 墓土塁跡	25 塙中道跡	36 山田宿者營市土地	59 北側山道跡	60 佐久原五木村古道跡
3 二本木古墳群	14 二本木古墳群	26 佐久原山道跡	46 佐久原行進跡	61 伊勢原宿方後田領	62 伊勢原志路
4 御西山古墳吉澤群	15 二本木山道跡	27 佐久二本木山道跡	49 宝南宮官方後田領	63 馬鹿志路	
5 三本木道跡	16 木木谷道跡	28 佐久二本木山道跡	50 大原山道跡	64 萩原保村	
6 尾羽原古墳群	17 布石道跡	29 寺内環塚寺跡	40 黄原道跡	51 東尾羽原町出土道跡	65 西石船古墳群
7 谷底古墳群	18 布石古道跡	30 布石原田道跡	41 成方道跡	66 稲荷・谷造跡	66 三津木山道跡
8 境三木隣道跡	19 切通道跡	31 余多城跡	42 成方新方後田道	67 西谷造跡	67 西谷造跡
9 香物古墳群	20 一本谷道跡	32 余牛田城跡	43 成方縣道跡	68 三田川山道跡	68 三田川山道跡
10 新之古墳群	21 芥原一本谷道跡	33 加茂原草薙蘆原	44 アンドン路道跡	69 吉野ヶ里丘陵道跡	69 吉野ヶ里丘陵道跡
11 里影原道跡	22 上のびゅう谷古墳	34 丘田道跡	45 町南道跡	70 下中長道跡	70 下中長道跡
	23 日置原古墳群	35 一ノ瀬理塚原道跡	46 天井道跡	71 下藤井原	71 下藤井原

Fig. 1 上峰町町内遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)

縄文時代になると、中原町香田遺跡⁹や東脊振村戦場ヶ谷遺跡¹⁰などが出現する。町内においても、これまでも丘陵部から土器や石器が、耕作や先覚者の遺跡の表面観察などによって断片的に出土、採取されていたが、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う発掘調査の結果、平成元年度の船石遺跡11区¹¹、平成2年度から5年度にわたり実施した八幡丘陵の調査¹²において、遺構や遺物がまとまって検出されており、今後の調査例の増加が期待されている。

弥生時代になると、遺跡の数や規模、その内容が飛躍的に増加、充実することは先に触れたが、早くから『魏志倭人伝』の「弥奴國」の所在地を佐賀平野東部、なかでも三養基郡西部の旧三根郡にあてる論考が行われてきたことは周知のことである。旧三根郡に所属する上峰町においても、丘陵部のほとんどにこの時期の遺跡が展開している。しかし、町の南部や中央部の米多地区、坊所地区の丘陵部は、中世以降集落として発達し、早くから宅地化が進み、本格的な発掘調査の例に乏しく、わずかに再開発に伴い部分的に小規模の発掘調査が行われているに過ぎず、遺跡の詳細について把握できていないのが現状である。これに対して、町北部の大字坊所地区では、近年の工業団地建設や農業基盤整備事業など大型開発に伴い広範囲かつ大規模な発掘調査が実施され、各遺跡から当時の社会の様子を知るうえで貴重な資料が得られている。町内の代表的な遺跡としては、甕棺墓から細形銅劍や貝釧を出土した切通遺跡¹³、神埼都東脊振村、三田川町にまたがる、佐賀県東部中核工業団地の建設に伴い甕棺墓、土壙墓など約300基が調査され、船載鏡、小型微製鏡をはじめとする貴重な副葬品を出土した二塚山遺跡¹⁴、佐賀県住宅供給公社の宅地造成に伴う調査で一集団の集落部分の全容が明らかになった一本谷遺跡¹⁵、地区運動公園整備に伴う調査で5世紀代の古墳とともに支石墓はじめ多数の甕棺墓が検出された船石遺跡¹⁶などが知られている。また、この度の県営農業基盤整備事業に伴う調査においても、船石遺跡¹⁷、船石南遺跡¹⁸、八幡遺跡¹⁹から住居址や甕棺墓などが多数検出されている。

古墳時代になると、この地域にも首長墓が出現する。初頭の時期には中原町姫方原遺跡²⁰、上峰町五本谷遺跡²¹などにおいて方形周溝墓が營まれ、やがて中期にかけて島栖市から佐賀郡大和町に至る山麓や丘陵部に大型の前方後円墳が出現する。島栖市劍塚古墳²²、中原町姫方古墳²³、上峰町西南部から神埼郡三田川町にまたがる目達原古墳群²⁴、神埼郡神崎町伊勢塚古墳²⁵、佐賀市鏡子塚古墳²⁶、佐賀郡大和町船塚古墳²⁷など佐賀県東部の代表的な古墳が築かれるようになる。さらに後期になると、現在長崎自動車道や県道佐賀川久保-島栖線が通る山麓部から丘陵部にまたがる一帯に小円墳を中心とした古墳が多数築かれ、それぞれが山麓部の尾根や谷あるいは丘陵を単位として後期古墳群を形成している。

後の『肥前風土記』にみえる三根郡綾部・米多郷に属する当時の上峰町一帯は、『古事記』、『国造本紀』などの記事によれば応神天皇の曾孫にあたる「都紀女加」なる人物が初代の米多国造として中央より下向した地域に比定され、その中心は町南西部の米多地区から神埼郡三田川町東部の目達原一帯にあったと推定されている。町内の主要な古墳としては、都紀女加を始祖とする米多国造一族の墳墓として、5世紀代後半に形成されたと考えられる上のびゅう塚（現在、陵墓参考地「都紀女加王墓」宮内庁管轄）はじめ無名塚、大塚、古稻荷塚、稻荷塚などの前方後円墳ほかからなる目達原古墳群²⁸が知られていたが、戦前の陸軍飛行場建設の際に、唯一上のびゅう塚を残し他の古墳は簡単な発掘調査の後破壊されている。また町の北部の古墳としては、同じく5世紀代の古墳で、蛇行状鉄劍、蛇行状鉄矛を出土した船石天神宮境内の船石古墳1～3号墳²⁹が知られている。古墳時代後期の古墳としては、町北部の鎮西山の周辺山麓部から高位段丘上にかけて、小円墳を主体とする谷塚、青柳、新立、奥の院、鎮西山南麓、屋形原などの古墳群が点在している。

一方、この時期の集落は、神埼郡三田川町下中枕遺跡³⁰、同郡東脊振村下石動遺跡³¹などが知られているが、

弥生時代集落に比べ、遺跡そのものの数も少なく、調査例も少くいまだに実態が明らかになっていないのが現状である。町内の遺跡をみても、当時の政治的中心であったと考えられる町南部の米多地区周辺における本格的な発掘調査の例がなく、今後の大きな課題といえる。

奈良・平安時代遺跡としては、三田川町下中村遺跡、東脊振村辛上庵寺跡³²⁾、靈仙寺跡³³⁾などが著名であるが、この時期の遺跡についてもまとまった調査例が少なく、実態はあまり解明されていない。当時の遺構として大規模なものは、佐賀平野に敷かれた条里制の遺構が上げられ、早くから地名などから条里の後元が試みられ、現在ではほとんどの条里が復元されている。また、大宰府から肥前国府へ通じる官道の調査も進み、近年部分的な発掘調査が行われている。

町内では堤土里跡³⁴⁾や塔の塚庵寺跡³⁵⁾などが奈良時代の遺跡として戦前から注目されている。町北部の堤地区の八藤丘陵と二塚山丘陵の間の谷底平野を遮断する形で築かれた堤土里跡は、版築工法により築かれた福岡県の水城に似た施設=「小水城」で、その築造目的が、大宰府の防衛施設であるとする説、灌漑用水確保のための溜池の堤防であるとする説など議論がなされてきたが、平成2年度からの土星の東方に接する八藤丘陵の調査において、土星東端から一直線に八藤丘陵を東方へ横断する道路側溝状の遺構が検出され³⁶⁾、その性格付けにあらたに古代道の存在が想定されることとなった。また町南西部を占める目達原丘陵の南端部に位置する塔の塚庵寺跡は、百济系單弁軒丸瓦が発見され、戦前までは基壇、礎石の存在が知られていた奈良時代中期の寺院址で、目達原古墳群を営んだ米多国造一族の流れをくむ三根郡の郡司層が建立したものと推定されている。また、町内における奈良・平安時代の集落は、農業基盤整備事業に伴う調査や近年の大規模小売店舗建設に先立つ坊所一本谷遺跡³⁷⁾の調査などでまとまった調査がなされたのみで、今後の調査例の増加が期待される。

中世になると、北部の山麓部の小峰に山城が築かれ、沖積平野部には環濠を伴う平城や集落が出現する。町内の中世城館址としては、北部の鎮西山山城、上峰町中央部の平野を臨む丘陵部に坊所城跡、町南部の平野部には米多城跡、前半田城跡、江迎城跡、一の橋環濠集落、加茂環濠集落などが知られていた³⁸⁾。しかし、昭和40年代後半からの圃場整備事業によって、これら平野部の遺構は、原状がほとんど失われてしまった。そのようななかで、町の親水公園として整備された江迎城跡では13世紀後半代の龍泉窯系の青磁碗が建物跡とともに出土し、また、坊所城跡では16世紀後半代の青花がそれぞれ出土している³⁹⁾。

以上、上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観したが、まさにこの地域は遺跡の密度、その内容ともに高く、遺跡の宝庫と呼ぶにふさわしい地域といえる。

註

- 1) 藤瀬植博・石橋新次『袖北遺跡群跡辨認調査第3年次概要報告書』鳥栖市文化財調査報告書第30集 鳥栖市教育委員会 1980
- 2) 木下巧・木本洋一『短方遺跡』佐賀県文化財調査報告書第30集 佐賀県教育委員会 1974
- 3) 七田忠昭『検見谷遺跡』北茂安町文化財調査報告書第2集 北茂安町教育委員会 1986
- 4) 金闇丈夫・坪井清足・金闇惣一『佐賀県三津油田遺跡』『日本農耕文化の生成』日本考古学協会 1961
- 5) 七田忠昭他『吉野ヶ里』佐賀県文化財調査報告書第113集 佐賀県教育委員会 1992
- 6) 原田大介『八幡遺跡III』上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 7) 七田忠志『原始』『上峰村史』上峰村 1979
- 8) 下山正一・西田民雄『II. 佐賀県上峰町周辺の地形と地質』『佐賀平野の阿蘇4火鉢流と埋没林』上峰町文化財調査報告書第11集 上峰町教育委員会 1994
- 9) 高瀬哲郎・堀安信・久保伸洋『香田遺跡』『香田遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書2 佐賀県文化財調査報告書第57集 佐賀県教育委員会 1961

- 10) 七田忠志 「佐賀県戦場ヶ谷遺跡」『史前学雑誌』 6-2・4 1934
- 11) 原田大介 「船石遺跡V」 上峰町文化財調査報告書第12集 上峰町教育委員会 1995
- 12) 原田大介 「八藤遺跡Ⅱ・堤土塁跡Ⅱ」 上峰町文化財調査報告書第14集 上峰町教育委員会 1998
前出(6)
- 13) 金間丈夫・金間惣・原口正三 「佐賀県切通遺跡」『日本農耕文化の生成』 日本考古学協会 1961
- 14) 高島忠平・七田忠昭他 「二塚山遺跡」「二塚山」 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 15) 七田忠昭 「一本谷遺跡」 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 16) 七田忠昭 「船石遺跡」 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 17) 鶴田清二・原田大介 「船石遺跡II 図録編」 上峰村文化財調査報告書第6集 上峰村教育委員会 1988
鶴田清二・原田大介 「船石遺跡II本文編」 上峰村文化財調査報告書第7集 上峰村教育委員会 1989
- 原田大介 「船石遺跡III」 上峰町文化財調査報告書第8集 上峰町教育委員会 1990
- 原田大介 「船石遺跡IV」 上峰町文化財調査報告書第9集 上峰町教育委員会 1991
- 18) 原田大介 「船石南遺跡I」 上峰町文化財調査報告書第21集 上峰町教育委員会 2002
原田大介 「船石南遺跡II」 上峰町文化財調査報告書第22集 上峰町教育委員会 2002
- 19) 原田大介 「八藤遺跡I」 上峰町文化財調査報告書第13集 上峰町教育委員会 1997
- 20) 木下巧他 「施方原遺跡」 佐賀県文化財調査報告書第33集 佐賀県教育委員会 1976
- 21) 木下巧・七田忠昭 「五本谷遺跡」「二塚山」 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 22) 石橋新次 「劍塚前方後円墳」 鳥栖市文化財調査報告書第22集 鳥栖市教育委員会 1984
- 23) 前出(2)
- 24) 松尾植作 「日連原古墳群調査報告」「佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告」 第9輯 佐賀県教育委員会 1950
- 25) 木下之治 「古代国家の形成」『佐賀県史』佐賀県 1968
- 26) 木下之治編 「鏡子塚」 佐賀県教育委員会1976
- 27) 松尾植作 「佐賀県考古大観」 祐德博物館 1959
- 28) 前出(24)
- 29) 前出(16)
- 30) 七田忠昭・高山久美子・西田和己 「下中村遺跡」 佐賀県文化財調査報告書第54集 佐賀県教育委員会 1980
- 31) 高瀬哲郎他 「下石動遺跡」「下石動遺跡」 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(6) 佐賀県文化財調査報告書第86集 佐賀県教育委員会 1987
- 32) 松尾植作 「東脊振村辛上廃寺跡の調査」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』第5輯 佐賀県 1936
- 33) 田平徳栄他 「雲仙寺跡」 東脊振村文化財調査報告書第4集 東脊振村教育委員会 1980
- 34) 高島忠平・征一義 「堤土塁跡」 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1978
- 35) 松尾植作 「塔の坂廃寺址」「佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告」 第7輯 佐賀県 1940
- 36) 前出(12)
原田大介 「八藤遺跡III」 上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 37) 平成5、6年度、上峰町教育委員会調査、整理中
- 38) 米倉二郎 「中世」「上峰村史」 上峰村 1979
- 39) 原田大介 「坊所城跡」 上峰町文化財調査報告書第10集 上峰町教育委員会 1992

II. 調査の概要

1. 調査に至る経緯

上峰町教育委員会では、平成元年度より、国庫補助事業の適用を受け、埋蔵文化財保護と開発との調整を図るために開発行為に伴い町内遺跡について事前の確認調査を実施してきた。民間あるいは公共機関等が主体となって実施される町内における各種開発行為について事前に協議を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地の内外にかかわらず、これまでに埋蔵文化財発掘調査歴がない土地については、開発面積や工法等の制約がない限り、開発主体者等に事前の確認調査の実施にむけた協力の要請を行っている。

2. 調査の方法

確認調査の方法は、開発予定地に面積的、地形的な制約がない場合、 $10m \times 3m$ の試掘溝により地下の遺構・遺物の有無を確認することとしている。図上で開発予定範囲全体に $10m$ のメッシュを組み、このメッシュに $10m \times 3m$ の試掘溝を一マスおきに市松模様状に設定して、試掘溝の配置計画を作成している。この配置計画をもとに現地で試掘溝を設定し、調査を実施している。

また、開発面積に対する試掘面積の割合は、事前に図上で試掘溝を設定する時点ではおおむね開発面積の10%を目途としているものの、実際の調査では現地の種々の制約により、試掘溝の規模、配置等は臨機応変な対応を採ることも多く、試掘面積を縮小せざるを得ない場合も少なくはない。

各試掘溝の掘削については、遺構検出までの掘削には可能な限り重機を使用しているが、重機が使用できない場合、包含層や遺構の掘り下げなどそれ以上の精査が必要な場合などは作業員の人力により掘削を行っている。遺構などが検出された試掘溝については、適宜略測を行い、縮尺 $1/100$ 程度の平面図、縮尺 $1/20$ 程度の土層断面図を作成し、フィルムカメラによる写真撮影を行い記録としている。作業終了後は、原則として試掘場は埋め戻しを行い原状への復旧を図っている。

上峰町全図

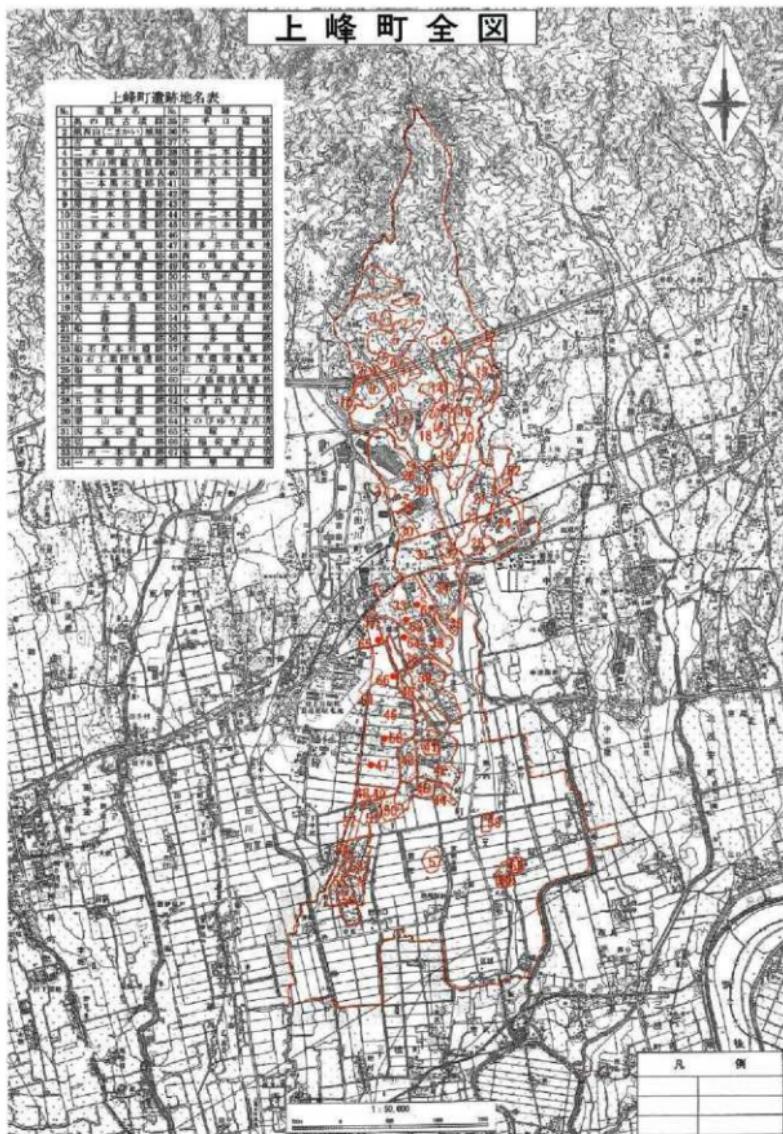


Fig. 2 上峰町遺跡地図 (1/50,000)

III. 平成6年度の調査

Tab.1 平成6年度 町内遺跡確認調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	坊所城跡(1)	上峰町大字坊所字櫻寺 712番地4, 712番地6, 712番地9	株式会社江崎しおり	分譲宅地造成工事	2,019	180	平成6年6月21日 平成6年6月22日	坊所城跡周辺の区画 溝、その他が検出さ れた。	遺構に影響がな いよう開発者と 調整中。	
2	新立古墳群	上峰町大字堀字谷渡 1652番地8, 1652番地9	個人	耕地整備	1,688	184	平成6年10月28日	遺構、遺物とも検出 されなかった。	工事実施中。	
3	外記遺跡(1)	上峰町大字坊所字七本谷 1570番地16	上峰町	町道用地代替地代 替後は駐車場とし て開発予定	495	41	平成6年11月1日	遺構、遺物とも検出 されなかった。	工事実施中。	
4	杉寺遺跡	上峰町大字坊所字西峰 2714番地	個人	共同住宅建設	881	45	平成6年11月4日	奈良時代の構等が検 出された。	遺構に影響がな いよう開発者と 調整中。	
5	坊所城跡(2)	上峰町大字坊所字櫻寺 827番地1, 828番地, 837番地1, 837番地3	個人	売却後に宅地造成 工事予定	1,550	219	平成6年11月8日	坊所城跡周辺の土 壠、溝路、その他が 検出された。	遺構に影響がな いよう開発者と 調整中。	
6	桜寺遺跡	上峰町大字坊所字櫻寺 709番地1, 710番地1	個人	宅地造成及び賃貸 住宅建設	2,180	120	平成6年11月9日	坊所城跡周辺の土 壠、溝、建物跡等が 検出された。	開発者と協議の 結果、開発中止。	
7	堀三本柳遺跡	上峰町大字堀字三本柳 3757番地, 3758番地, 3759番地, 3760番地, 3761番地, 3762番地, 3762番地1, 3763番地, 3764番地, 3765番地, 3767番地, 3768番地, 3769番地, 3777番地, 3781番地1, 3783番地, 3784番地1, 3785番地, 3787番地, 3786番地1, 3788番地, 3791番地, 3792番地, 3794番地, 3795番地, 3797番地, 3798番地, 3799番地, 3800番地, 3802番地, 3807番地1, 3808番地1, 3809番地	久栄商事株式会社	倉庫用地造成	17,371	665	平成7年1月26日 平成7年1月27日 平成7年1月30日	近世と思われるピ ットが検出された。	遺構に影響がな いよう開発者と 調整中。	
8	外記遺跡(2)	上峰町大字坊所字七本谷 1570番地1, 1570番地2, 1570番地3, 1570番地5, 1570番地30, 1574番地	株式会社 ジャパンメンテナンス九州	グラッシャーラン 駐車場造成	11,971	435	平成7年2月7日	奈良時代と思われる ピットが検出され た。	遺構に影響がな いよう開発者と 調整し、工事実 施。	
9	周知外 切通地区	上峰町大字堀字四本谷 1824番地1, 1824番地8, 1824番地10, 1837番地11, 1837番地12	高杉園苑株式会社	分譲住宅用地の造 成	4,656	85	平成7年2月21日	遺構、遺物とも検出 されなかった。	工事実施予定。	



Fig. 3 平成6年度 確認調査位置図 (1/50,000)

H6-1

遺跡名：坊所城跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字櫻寺

工事内容：分譲住宅用地及び道路造成工事

工事面積：2,019 m²

調査面積：180 m²

調査時期：平成6年6月21、22日

立地と環境：坊所城跡は上峰町大字坊所字櫻寺に所在

する中世城館跡で、町の中南部上坊所集

落が立地する坊所丘陵の中央部標高10m付近に位置している。現在も一帯には、土里や区画溝などが比較的良好な状態で残っている。調査対象地区はこの坊所城の中央部にあたり「カンジャ屋敷」などのしこ名も残っている。

遺構と遺物：坊所城関連の区画溝その他が検出された。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存、工事実施。



Fig. 4 坊所城跡(1) (1/5,000)



PL. 1 No.3試掘溝（北から）

H 6 - 2

遺 跡 名：新立古墳群

調 査 地：上峰町大字堤字谷渡

工 事 内 容：耕地整備

工 事 面 積：1,688 m²

調 査 面 積：184 m²

調 査 時 期：平成 6 年 10 月 28 日

立地と環境：新立古墳群は上峰町大字堤字谷渡に所在

する小円墳を主体とする古墳時代後期の

古墳群で、町の北部の鈴西山南麓から堤地区八幡へ延びる八幡丘陵の高位段丘面標高 35m～65m付近の尾根上に位置している。調査対象地区はこの高位段丘の西斜面に位置しており、畜糞堆などとして利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物とも検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 5 新立古墳群 (1/5,000)



PL. 2 作業状況

H 6 - 3

遺跡名：外記遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字七本谷

工事内容：町道用地代替地、駐車場造成工事

工事面積：495 m²

調査面積：41 m²

調査時期：平成6年11月1日

立地と環境：外記遺跡は上峰町大字坊所字七本谷に所

在し、町のほぼ中央部郡境地区から下津

毛地区へと延びる下津毛丘陵とその西側の目達原丘陵にまたがる集落遺跡である。調査対象地区は外記溜池東側、下津毛丘陵の標高19m付近に位置している。これまででは目達原古墳群改葬地として町の公園用地の一部であった。南方約70mの同丘陵尾根上には上のびゅう古墳（陵墓参考地「都紀女加王墓」）が所在している。

遺構と遺物：遺構、遺物とも検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 6 外記遺跡(1) (1/5,000)



PL. 3 No.1試掘溝（南東から）

H 6 - 4

遺跡名：杉寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：881 m²

調査面積：45 m²

調査時期：平成6年11月4日

立地と環境：杉寺遺跡は上峰町大字坊所字杉寺に所在

し、町のほぼ中南部上坊所地区西部の旧

「新堤」付近を谷頭とする谷水田部分とその東西両側の坊所丘陵と目達原丘陵の一部、標高 6m～11m 付近一帯に広がる集落遺跡である。今回の調査対象区域は谷頭の最奥部「新堤」の北側標高 10m 付近に位置している。

遺構と遺物：奈良時代の土壙などが検出された。

調査後措置：開発者と協議の結果、開発中止。



Fig. 7 杉寺遺跡 (1/5,000)



PL. 4 No.3 試掘溝 遺構検出状況（西から）

H 6 - 5

遺 踪 名：坊所城跡(2)

調 査 地：上峰町大字坊所字櫻寺

工 事 内 容：売却後、分譲宅地造成工事

工 事 面 積：1,550 m²

調 査 面 積：219 m²

調 査 時 期：平成 6 年 11 月 8 日

立地と環境：坊所城跡は上峰町大字坊所字櫻寺に所在

する中世城館跡で、町の中南部上坊所集

落が立地する坊所丘陵の中央部標高10m付近に位置している。現在も一帯には、土塁や区画溝など
が比較的良好な状態で残っている。調査対象地区はこの坊所城の中央部にあたり「カンジャ屋敷」
などのしこ名も残っている。

遺構と遺物：坊所城跡周辺の土塁、溝跡、土壤などが検出された。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存し、工事実施。



Fig. 8 坊所城跡(2) (1/5,000)



PL. 5 遺構検出状況 (北から)

H 6 - 6

遺跡名：樅寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所字樅寺

工事内容：宅地造成及び賃貸住宅建設工事

工事面積：2,180 m²

調査面積：120 m²

調査時期：平成6年11月9日

立地と環境：樅寺遺跡は上峰町大字坊所字樅寺に所在

する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、

町中南部の現上坊所集落が占有する坊所丘陵上に立地している。調査対象地区は坊所丘陵のほぼ中央部標高9m付近に位置しており、これまで畠として利用されていた。

遺構と遺物：中世坊所城跡関連の建物跡と考えられる柱穴、土壙などが検出された。

調査後措置：開発者と協議の結果、開発中止。



Fig. 9 樅寺遺跡 (1/5,000)



PL. 6 No.3試掘溝 遺構検出状況（南から）

H 6 - 7

遺 跡 名 : 堤三本柳遺跡

調 査 地 : 上峰町大字堤三本柳

工 事 内 容 : 倉庫用地造成工事

工 事 面 積 : 17,371 m²

調 査 面 積 : 665 m²

調 査 時 期 : 平成 7年 1月 26、27、30 日

立地と環境 : 堤三本柳遺跡は、上峰町大字堤字三本柳

に所在する古墳時代から奈良時代の墳墓、

集落遺跡で、筑西山西南麓から県道鳥栖川久保線付近へ派生する丘陵上に位置している。調査対象地
区はこの丘陵の 35m~45m 付近、上記県道北側沿線に位置し、これまで一部は工場用地、他は水
田・畑などとして利用されていた。

遺構と遺物 : 一部から近世と思われるピットが検出された。

調査後措置 : 検出された遺構については工事の影響が及ばないことを確認し工事実施。



Fig. 10 堤三本柳遺跡 (1/5,000)



PL. 7 No.9試掘溝（東から）

H 6 - 8

遺 跡 名：外記遺跡(2)

調 査 地：上峰町大字坊所字七本谷

工 事 内 容：駐車場用地造成工事

工 事 面 積：11,971 m²

調 査 面 積：435 m²

調 査 時 期：平成 7 年 2 月 7 日

立地と環境：外記遺跡は上峰町大字坊所字七本谷に所在し、町のほぼ中央部郡境地区から下津毛地区へと延びる下津毛丘陵とその西側の目遠原丘陵にまたがる集落遺跡である。調査対象地区は外記溜池東側、下津毛丘陵の標高 15m～16m 付近に位置している。丘陵部分はすでに削平され各種事業所の資材置場として利用されていた。北方 100m の同丘陵尾根上には上のひゅう古墳（陵墓参考地「都紀女加王墓」）が所在している。

遺構と遺物：一部の試掘項で奈良時代と思われるピットが検出された。

調査後措置：検出された遺構については工事の影響が及ばないことを確認し工事実施。



Fig.11 外記遺跡(2) (1/5,000)



PL. 8 作業状況



PL. 9 No.6試掘溝 遺構検出状況（西から）

H 6 - 9

遺 踪 名：周知外 切通地区

調 査 地：上峰町大字堤字四本谷

工 事 内 容：分譲宅地造成工事

工 事 面 積：4,656 m²

調 査 面 積：85 m²

調 査 時 期：平成 7 年 2 月 21 日

立地と環境：調査対象地区は、切通地区、JR 長崎木

線南部の切通川西岸の谷水田面標高

14m 付近に位置し水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物とも検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.12 周知外 切通地区 (1/5,000)



PL.10 調査地全景（東から）

IV. 平成7年度の調査

Tab.2 平成7年度 町内遺跡調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	坊所城跡	上峰町大字坊所字櫻寺 828番地、837番地1	個人	個人所有の山林売却(売却後は宅地として盛土による造成)	1,000	800	平成7年6月20日 平成7年6月21日 平成7年6月22日 平成7年6月23日 平成7年7月19日	坊所城周辺の土壌、構造、その他が検出された。	遺構の平面配置を確認後、遺構に影響がないよう開発者と調整し、造成予定。	
2	周知外 下津毛地区	上峰町大字坊所字下津毛 108番地6、108番地9、 108番地10、109番地1、 109番地2、109番地3	三井地区農業共済組合	事務所・倉庫・駐車場の造成	3,061	100	平成7年6月27日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
3	杉寺遺跡	上峰町大字坊所西峰 2781番地	個人	個人所有の畠地売却(売却条件)	850	90	平成7年6月29日	古墳時の土壌、中世の構築が検出された。	開発中止。	
4	周知外 下坊所地区	上峰町大字坊所字二本松 368番地、370番地1、 371番地1、372番地1	株式会社中山運送	事務所・駐車場の造成	3,854	90	平成7年6月30日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中。	
5	三上遺跡	上峰町大字坊所字三上 3231番地1、3232番地1	個人	共同住宅建設	1,690	180	平成7年9月1日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中。	
6	都寺遺跡	上峰町大字坊所字櫻寺 595番地1	個人	個人経営の共同住宅建設	1,095	120	平成7年9月5日	弥生・奈良時代の集落、中世の構築などを検出。	本調査に向けて協議中。	
7	坊所五本谷遺跡(1)	上峰町大字坊所字五本谷 2032番地1	個人	グートボール場造成	658	80	平成7年9月8日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定。	
8	堀三本松遺跡	上峰町大字堀字一本黒木 3961番地1、3961番地3、 3961番地5、3962番地1、 3962番地3、3962番地8、 3962番地9、3962番地10、 3976番地1	株式会社サイコー	借地の上、倉庫・事務所建設予定	2,129	230	平成7年10月26日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定。	
9	坊所五本谷遺跡(2)	上峰町大字坊所字五本谷 1796番地63、1806番地、 1807番地、1808番地1、 1808番地2、1808番地3	個人	共同住宅及び自己住宅建設	1,240	120	平成7年11月22日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定。	
10	一本谷遺跡	上峰町大字坊所字一本谷 2552番地66	大盛産業株式会社	宅地造成	2,254	130	平成7年12月1日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定。	
11	周知外 上坊所地区	上峰町大字坊所字上坊所 444番地3、450番地11	個人	病院・薬局用地造成	2,149	70	平成7年12月19日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定。	
12	坊所五本谷遺跡(3)	上峰町大字坊所字五本谷 1902番地1、1904番地1、 1904番地3、1904番地4、 1905番地	福幸商店	分譲住宅建設	1,168	130	平成8年1月12日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定。	

上峰町全図



Fig.13 平成7年度 確認調査位置図 (1/50,000)

H 7 - 1

遺 跡 名：坊所城跡

調 査 地：上峰町大字坊所字櫻寺

工 事 内 容：個人所有の山林売却（売却後は宅地造成
予定）

工 事 面 積：1,000 m²

調 査 面 積：800 m²

調 査 時 期：平成 7 年 6 月 20 日、21 日、22 日、23

日、7 月 19 日

立地と環境：坊所城跡は上峰町大字坊所字櫻寺に所在する中世城館跡で、町の中南部上坊所集落が立地する坊所丘陵の中央部標高 10m 付近に位置している。現在も一帯には、土塁や区画溝などが比較的良好な状態で残っている。調査対象地区はこの坊所城の中央部にあたり「カンジャ屋敷」などのしこ名も残っている。

遺構と遺物：坊所城関連の土塁、溝跡など等が検出された。

調査後措置：遺構の平面配置を確認後、検出された遺構については盛土保存し、工事実施。



Fig.14 坊所城跡遺跡 (1/5,000)



PL.11 遺構検出作業状況

H 7 - 2

遺 踪 名：周知外 下津毛地区

調 査 地：上峰町大字坊所字下津毛

工 事 内 容：事務所・倉庫・駐車場用地造成工事

工 事 面 積：3,061 m²

調 査 面 積：100 m²

調 査 時 期：平成 7 年 6 月 27 日

立地と環境：調査対象区域は上峰町大字坊所字下津毛

地区、切通川西岸の沖積地標高 8m 付近

に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.15 周知外 下津毛地区 (1/5,000)



PL.12 作業状況

H7-3

遺跡名：杉寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所西峰

工事内容：個人所有の畠地売却（売却条件）

工事面積：850 m²

調査面積：90 m²

調査時期：平成7年6月29日

立地と環境：杉寺遺跡は上峰町大字坊所字杉寺に所在

し、町のほぼ中南部上坊所地区西部の旧

「新堀」付近を谷頭とする谷水田部分とその東西両側の坊所丘陵と目連原丘陵の一部、標高 6m～11m 付近一帯に広がる集落遺跡である。今回の調査対象区域は目連原丘陵東側縁辺部の標高 10m 付近に位置し、畠として利用されていた。

遺構と遺物：古墳時代の土塼、中世の溝跡が検出された。

調査後措置：開発中止。



Fig.16 杉寺遺跡 (1/5,000)



PL.13 No.1試掘溝 遺構検出状況 (南から)

H7-4

遺跡名：周知外 下坊所地区

調査地：上峰町大字坊所二本松

工事内容：事務所・駐車場用地造成工事

工事面積：3,854 m²

調査面積：90 m²

調査時期：平成7年6月30日

立地と環境：調査対象地区は上峰町中南部の坊所地区

に広がる坊所丘陵を上坊所丘陵、下坊所

丘陵に分かつ小支谷の谷水田部標高6m付近に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.17 周知外 下坊所地区 (1/5,000)



PL.14 調査地全景 (北東から)

H7-5

遺跡名：三上遺跡

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：共同住宅建設

工事面積：1,690 m²

調査面積：180 m²

調査時期：平成7年9月1日

立地と環境：三上遺跡は上峰町大字坊所字三上、西峰

に所在し、町の南西部目達原丘陵上に位

置する縄文時代から奈良・平安時代の集落遺跡である。本町と三田川町にまたがる目達原丘陵は、戰時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されている。調査対象地区はこの目達原丘陵の北東部標高16m付近に位置しており、畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

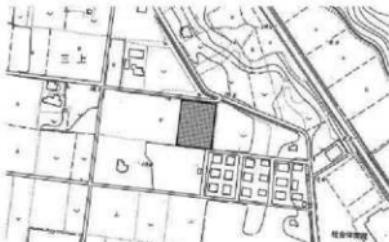


Fig.18 三上遺跡 (1/5,000)



PL.15 作業状況

H 7 - 6

遺 跡 名：樺寺遺跡

調 査 地：上峰町大字坊所字樺寺

工 事 内 容：個人經營の共同住宅建設

工 事 面 積：1,095 m²

調 査 面 積：120 m²

調 査 時 期：平成 7 年 9 月 5 日

立地と環境：樺寺遺跡は上峰町大字坊所字樺寺に所在

する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、

町中南部の現上坊所集落が占有する坊所丘陵上に立地している。調査対象地区は坊所丘陵の東縁辺

標高 9m 付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：弥生・奈良時代の住居跡、建物跡、土壌、中世の構築などが検出された。

調査後措置：本調査実施後、工事実施。



Fig.19 樺寺遺跡 (1/5,000)



PL. 16 No.3試掘溝 遺構検出状況（南から）

H 7 - 7

遺跡名：坊所五本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字五本谷

工事内容：ゲートボール場造成

工事面積：658 m²

調査面積：80 m²

調査時期：平成7年9月8日

立地と環境：坊所五本谷遺跡は、上峰町大字坊所字五

木谷に所在する弥生から中世に及ぶ集落

遺跡で町中央部の郡境地区から現下津毛集落付近へ延びる丘陵の中部から先端付近に立地している。

調査対象地区はこの下津毛丘陵の標高 10m 付近に位置しており、かつては畠であったが竹やぶとなっていました。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.20 坊所五本谷遺跡(1) (1/5,000)



PL. 17 №1試掘溝（南から）

H 7 - 8

遺跡名：堤三本松遺跡

調査地：上峰町大字堤字一本黒木

工事内容：倉庫・事務所建設工事

工事面積：2,129 m²

調査面積：230 m²

調査時期：平成7年10月26日

立地と環境：堤三本松遺跡は上峰町大字堤字三本松・

一本黒木に所在する古墳時代から奈良時

代に及ぶ集落遺跡で、東有振村から現星形原集落付近へ延びる星形原丘陵の東側低位段丘面に立地している。調査対象地区は町北部を東西に横断する高速自動車道の南、標高35m付近に位置しており、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 21 堤三本松遺跡 (1/5,000)



PL. 18 調査地全景 (北西から)

H 7 - 9

遺 踪 名：坊所五本谷遺跡(2)

調 査 地：上峰町大字坊所字五本谷

工 事 内 容：共同住宅及び自己住宅建設工事

工 事 面 積：1,240 m²

調 査 面 積：120 m²

調 査 時 期：平成 7 年 11 月 22 日

立地と環境：坊所五本谷遺跡は、上峰町大字坊所字五

本谷に所在する弥生から中世に及ぶ集落

遺跡で町中央部の郡境地区から現下津毛集落付近へ延びる丘陵の中部から先端付近に立地している。

調査対象地区はこの下津毛丘陵の標高 15m 付近に位置しており、これまで宅地、畑として利用されていた。

遺構・遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.22 坊所五本谷遺跡(2) (1/5,000)



Pl. 19 調査地近景（南から）

H7-10

遺跡名：一本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字一本谷

工事内容：宅地造成

工事面積：2,254 m²

調査面積：130 m²

調査時期：平成7年12月1日

立地と環境：一本谷遺跡は、上峰町大字坊所字一本谷

に所在する弥生時代を中心とする集落遺

跡で、町中央部の切通地区から井手口地区へ延びる丘陵上に立地している。調査対象地区はこの丘

陵の基部付近、東側斜面標高25m付近に位置し、産業廃棄物置場として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施予定。



Fig. 23 坊所一本谷遺跡 (1/5,000)



PL. 20 調査地遠景（南から）

H7-11

遺跡名：周知外 上坊所地区

調査地：上峰町大字坊所字上坊所

工事内容：病院・郵局用地造成

工事面積：2,149 m²

調査面積：70 m²

調査時期：平成7年12月19日

立地と環境：調査対象区域は上峰町大字坊所字上坊所

地区に所在し、切通川西岸の沖積地標高

5m付近に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施

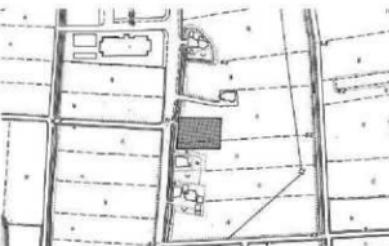


Fig.24 周知外 上坊所地区 (1/5,000)



PL. 21 調査地全景（南西から）

H 7 - 1 2

遺 跡 名：坊所五本谷遺跡(3)

調 査 地：上峰町大字坊所字五本谷

工 事 内 容：分譲住宅建設

工 事 面 積：1,168 m²

調 査 面 積：130 m²

調 査 時 期：平成 8 年 1 月 12 日

立地と環境：坊所五本谷遺跡は、上峰町大字坊所字五

本谷に所在する弥生から中世に及ぶ集落

遺跡で町中央部の郡境地区から現下津毛集落付近へ延びる丘陵の中部から先端付近に立地している。

調査対象地区はこの下津毛丘陵の西側斜面標高 15m 付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施予定



Fig. 25 坊所五本谷遺跡(3) (1/5,000)



PL. 22 作業状況

V. 平成8年度の調査

Tab.3 平成8年度 町内清跡確認調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	周知外 上坊所地区	上峰町大字坊所字上坊所 419番地1, 419番地2, 419番地3, 419番地4, 419番地5, 419番地6	神塔物流株式会社	倉庫用地の造成	3,394	100	平成8年4月10日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
2	三上遺跡(1)	上峰町大字坊所字西峰 3008番地2	有限会社東部開発	分譲住宅用地造成	1,463	160	平成8年4月26日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
3	周知外 切通地区	上峰町大字堤字四本谷 1875番地1, 1877番地3, 1881番地	個人病院	病院建設	222	20	平成8年6月13日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
4	周知外 下坊所地区(1)	上峰町大字坊所字二本松 376番地1	有限会社シティ開発	分譲住宅用地造成	2,101	70	平成8年6月26日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
5	坊所城跡	上峰町大字坊所字櫻寺 830番地	日山ホーム株式会社	分譲住宅用地造成	626	30	平成8年7月17日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
6	三上遺跡(2)	上峰町大字坊所字三上 3232番地1, 3233番地3 3233番地4	個人	個人経営の共同住宅建設	1,213	120	平成8年8月8日	縄文時代の土塙、 ビットが検出された。	本調査後工事実施。	
7	坊所二本松遺跡	上峰町大字坊所字二本松 2032番地1	個人	現況地盤状での個人経営の共同住宅・駐車場建設	1,346	200	平成8年10月11日	堀宿墓、堀宿墓の基壇と考えられる土塙、溝跡などが検出され、零生式土器が出土された。	平成9年度、本調査実施予定。	
8	周知外 下津毛地区(1)	上峰町大字坊所字下津毛 217番地1, 217番地2	福幸商事	分譲住宅用地造成	3,205	330	平成8年12月3日 平成8年12月4日 平成8年12月5日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
9	三上遺跡(3)	上峰町大字坊所字三上 3134番地1	個人	個人経営の共同住宅建設	1,899	210	平成8年12月6日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中。	
10	周知外 下津毛地区(2)	上峰町大字坊所字下津毛 48番地5, 48番地9	福幸商事	分譲住宅用地造成	4,180	450	平成8年12月11日 平成8年12月12日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中。	
11	三上遺跡(4)	上峰町大字坊所字三上 3191番地1, 3191番地2, 3191番地3, 3192番地1, 3192番地2	個人	土地売却後分譲宅地造成予定	2,042	100	平成8年12月13日	遺構・遺物は検出されなかった。	原状のまま。	
12	周知外 下坊所地区(2)	上峰町大字坊所字下坊所 1776番地6, 1776番地7, 1776番地8, 1776番地9, 1777番地2	上峰町	集落排水処理施設建設	2,897	270	平成8年12月16日	遺構・遺物は検出されなかった。	平成9年・10年度工事実施予定。	
13	三上遺跡(5)	上峰町大字坊所字三上 3257番地1, 3276番地1	個人	個人経営の共同住宅建設用地造成	2,395	270	平成9年1月6日 平成9年1月7日 平成9年1月9日	中世の土塙1基が検出された。	盛土対応、慎重工事実施予定。	

Tab.3 平成8年度 町内遺跡施認調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	原 因 者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
14	周知外 下坊所地区(3)	上峰町大字坊所字下坊所 1774番地1, 1774番地2, 1774番地3, 1774番地4, 1774番地5, 1776番地1, 1776番地3	上峰町	町営住宅建設	4,546	450	平成9年1月9日 平成9年1月11日	遺構・遺物は検出されなかつた。	平成9年・10年度工事実施予定。	
15	坊所一本谷遺跡	上峰町大字坊所字一本谷 2543番地1, 2543番地2	個人	貸し店舗用地造成	1,240	50	平成9年1月23日	遺構・遺物は検出されなかつた。	工事実施予定。	
16	杉寺遺跡	上峰町大字坊所字杉寺 1270番地1, 1336番地, 1337番地, 1338番地1, 1340番地3, 1341番地, 1342番地, 1343番地1, 1344番地, 1345番地, 1347番地, 1349番地5, 1350番地, 1360番地, 1361番地 上峰町大字坊所字三本松 900番地, 902番地1, 902番地4	福幸商事	分譲住宅用地造成	9,690	750	平成9年2月3日 平成9年2月4日 平成9年2月5日 平成9年2月6日 平成9年2月7日	一部の試掘溝にて奈良時代の遺跡、土壙、ビットが検出され、それらに伴い須恵器・土師器が出土した。	盛土対応、慎重工事実施予定。	

上峰町全図



Fig.26 平成8年度 確認調査地位置図 (1/50,000)

H 8 - 1

遺 踪 名：周知外 上坊所地区

調 査 地：上峰町大字坊所字上坊所

工 事 内 容：倉庫用地の造成

工 事 面 積：3,394 m²

調 査 面 積：100 m²

調 査 時 期：平成 8 年 4 月 10 日

立地と環境：調査対象区域は上峰町大字坊所字上坊所

地区に所在し、切通川西岸の沖積地標高

7m 付近に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.27 周知外 上坊所地区 (1/5,000)



PL. 23 調査地全景 (北東から)

H8-2

遺跡名：三上遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所西峰

工事内容：分譲住宅用地造成

工事面積：1,463 m²

調査面積：160 m²

調査時期：平成8年4月26日

立地と環境：三上遺跡は上峰町大字坊所字三上、西峰

に所在し、町の南西部目達原丘陵上に位

置する縄文時代から奈良・平安時代の集落遺跡である。本町と三田川町にまたがる目達原丘陵は、戰時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されている。調査対象地区はこの目達原丘陵の北東部標高16m付近に位置しており、畑として利用されていた。

遺構・遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

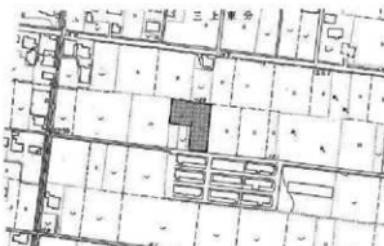


Fig.28 三上遺跡(1) (1/5,000)



PL.24 調査地全景（北西から）

H8-3

造跡名：周知外 切通地区

調査地：上峰町大字坊所字四本谷

工事内容：病院建設

工事面積：222 m²

調査面積：20 m²

調査時期：平成8年6月13日

立地と環境：調査対象区域は上峰町大字堤字四本谷に

所在し、切通川西岸の河岸段丘上標高

14m付近に位置し、宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.29 周知外 切通地区 (1/5,000)



PL.25 調査地全景 (北西から)

H 8 - 4

遺 踪 名：周知外 下坊所地区(1)

調 査 地：上峰町大字坊所字二本松

工 事 内 容：分譲住宅用地造成

工 事 面 積：2,101 m²

調 査 面 積：70 m²

調 査 時 期：平成 8 年 6 月 26 日

立地と環境：調査対象区域は上峰町大字坊所字二本松

に所在し、坊所丘陵の一支谷の谷口部分、

標高 5m 付近の沖積地に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.30 周知外 下坊所地区(1) (1/5,000)



PL.26 調査地全景 (北西から)

H 8 - 5

遺 踪 名：坊所城跡

調 査 地：上峰町大字坊所字櫻寺

工 事 内 容：分譲住宅用地造成

工 事 面 積：626 m²

調 査 面 積：30 m²

調 査 時 期：平成 8 年 7 月 17 日

立地と環境：坊所城跡は上峰町大字坊所字櫻寺に所在

する中世城館跡で、町の中南部上坊所集

落が立地する坊所丘陵の中央部標高 9m 付近に位置している。現在も一帯には、土里や区画溝などが比較的良好な状態で残っている。調査対象地区はこの坊所城の中央部にあたり「カンジャ屋敷」などのしこ名も残っている。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.31 坊所城跡 (1/5,000)



PL.27 作業状況

H 8 - 6

遺跡名：三上遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：個人経営の共同住宅建設用地造成

工事面積：1,213 m²

調査面積：120 m²

調査時期：平成8年8月8日

立地と環境：三上遺跡は上峰町大字坊所字三上、西峰

に所在し、町の南西部目達原丘陵上に位

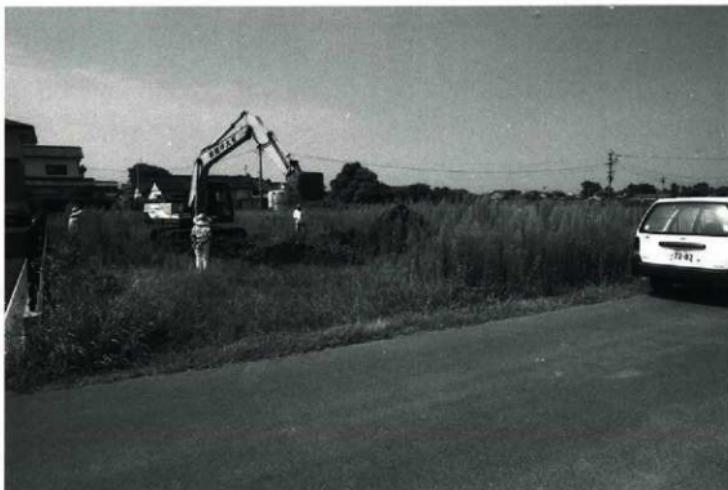


Fig.32 三上遺跡(2) (1/5,000)

置する縄文時代から奈良・平安時代の集落遺跡である。本町と三田川町にまたがる目達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されている。調査対象地区はこの目達原丘陵の北東部標高16m付近に位置しており、畑として利用されていた。

遺構と遺物：縄文時代の土壙、ピットが検出された。

調査後措置：本調査終了後工事実施。



PL.28 作業状況

H 8 - 7

遺跡名：坊所二本松遺跡

調査地：上峰町大字坊所字二本松

工事内容：共同住宅・駐車場建設

工事面積：1,846 m²

調査面積：200 m²

調査時期：平成8年10月11日

立地と環境：坊所二本松遺跡は上峰町大字坊所字二本

松に所在し、下坊所丘陵から南東へ半島

状に派生する一支丘南斜面、標高8m付近に位置し、頃として利用されていた。

遺構と遺物：甕棺墓、甕棺墓の墓壙と考えられる土壙、構跡などが検出され、弥生式土器が出土した。

調査後措置：平成9年度、本調査実施。調査終了後工事実施。



Fig. 38 坊所二本松遺跡 (1/5,000)



PL.29 №2試掘溝 遺構検出状況

H 8 - 8

遺 踪 名：周知外 下津毛地区(1)

調 査 地：上峰町大字坊所字下津毛

工 事 内 容：分譲住宅

工 事 面 積：3,205 m²

調 査 面 積：330 m²

調 査 時 期：平成 8 年 12 月 3、4、5 日

立地と環境：調査対象区域は上峰町大字坊所字下津毛

に所在し、外記溜池付近を谷頭とし下津

毛丘陵と日蓮原丘陵の間に発達する谷底平野、標高 8m 付近に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺物・遺構は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.34 周知外 下津毛地区(1) (1/5,000)



PL.30 作業状況

H 8 - 9

遺跡名：三上遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：個人経営の共同住宅建設用地造成

工事面積：1,899 m²

調査面積：210 m²

調査時期：平成8年12月6日

立地と環境：三上遺跡は上峰町大字坊所字三上、西峰

に所在し、町の南西部目達原丘陵上に位

置する绳文時代から奈良・平安時代の集落遺跡である。本町と三田川町にまたがる目達原丘陵は、

戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されている。調査対象地区はこの目達原丘陵の

中央部標高15m付近に位置しており、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.35 三上遺跡(3) (1/5,000)



PL.31 作業状況

H8-10

遺 考 名：周知外 下津毛地区(2)

調 査 地：上峰町大字坊所字下津毛

工 事 内 容：分譲住宅用地造成

工 事 面 積：4,180 m²

調 査 面 積：450 m²

調 査 時 期：平成 8 年 12 月 11、12 日

立地と環境：調査対象区域は上峰町大字坊所字下津毛

に所在し、下津毛丘陵南端部東側の沖積

地、標高 8m 付近に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.36 周知外 下津毛地区(2) (1/5,000)



PL.32 調査地近景 (東から)

H8-11

遺跡名：三上遺跡(4)

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：土地売却後分譲住宅造成予定

工事面積：2,042 m²

調査面積：100 m²

調査時期：平成8年12月13日

立地と環境：三上遺跡は上峰町大字坊所字三上、西峰

に所在し、町の南西部目達原丘陵上に位置する縄文時代から奈良・平安時代の集落遺跡である。本町と三田川町にまたがる目達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変更されている。調査対象地区はこの目達原丘陵の中央部標高15m付近に位置しており、宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

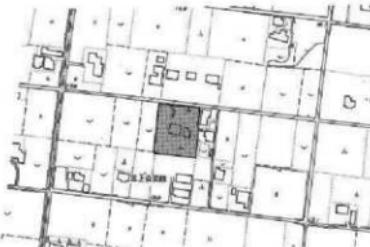


Fig.37 三上遺跡(4) (1/5,000)



PL.33 作業状況

H8・12

遺 踪 名：周知外 下坊所地区(2)

調 査 地：上峰町大字坊所字下坊所

工 事 内 容：集落排水処理場建設

工 事 面 積：2,897 m²

調 査 面 積：270 m²

調 査 時 期：平成 8 年 12 月 16 日

立地と環境：調査対象区域は上峰町大字坊所字下坊所

に所在し、坊所丘陵の一支谷の谷口部分、

標高 5m 付近の冲積地に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：平成 9、10 年度工事実施。



Fig.38 周知外 下坊所地区(2) (1/5,000)



PL.34 作業状況

HB - 13

遺 踪 名：三上遺跡(5)

調 査 地：上峰町大字坊所字三上

工 事 内 容：共同住宅建設用地造成

工 事 面 積：2,395 m²

調 査 面 積：270 m²

調 査 時 期：平成 9 年 1 月 6、7、9 日

立地と環境：三上遺跡は上峰町大字坊所字三上、西峰

に所在し、町の南西部日連原丘陵上に位

置する縄文時代から奈良・平安時代の集落遺跡である。本町と三田川町にまたがる日連原丘陵は、

戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されている。調査対象地区はこの日連原丘陵の

中央部標高 16m付近に位置しており、水田として利用されていた。

遺構と遺物：中世の土塙 1 基が検出された。

調査後措置：検出された遺構は盛り土保存し、工事実施。

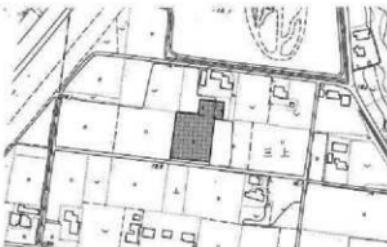


Fig.39 三上遺跡(5) (1/5,000)



PL.35 作業状況

H8-14

遺跡名：周知外 下坊所地区(3)

調査地：上峰町大字坊所字下坊所

工事内容：町営住宅建設

工事面積：4,546 m²

調査面積：450 m²

調査時期：平成9年1月9、11日

立地と環境：調査対象区域は上峰町大字坊所字下坊所

に所在し、坊所丘陵の一支谷の谷口部分、

標高5m付近の冲積地に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：平成9、10年度に工事実施。



Fig.40 周知外 下坊所地区(3) (1/5,000)



PL.86 調査地遠景 (北西から)

H 8 - 15

遺跡名：坊所一本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字一本谷

工事内容：貸し店舗用地造成工事

工事面積：1,240 m²

調査面積：50 m²

調査時期：平成9年1月23日

立地と環境：坊所一本谷遺跡は、町のほぼ中央部上峰

町大字坊所字一本谷、七本谷に所在し、

二塚山丘陵から井手口地区へ延びる丘陵上に位置する弥生時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。調査対象区域は国道34号線沿いの丘陵東斜面、標高23m付近に位置しており、資材置場として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.41 坊所一本谷遺跡 (1/5,000)



PL.37 調査地全景（北西から）

H8-16

遺跡名：杉寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所字杉寺、三本松

工事内容：分譲住宅用地造成工事

工事面積：9,690 m²

調査面積：750 m²

調査時期：平成9年2月3～7日

立地と環境：杉寺遺跡は上峰町大字坊所字杉寺に所在

し、町のほぼ中南部上坊所地区西部の旧

「新堤」付近を谷頭とする谷水田部分とその東西両側の坊所丘陵と目達原丘陵の一部、標高 6m～11m 付近一帯に広がる集落遺跡である。今回の調査対象区域は旧「新堤」付近を谷頭とする谷水田部分、標高 8m 付近に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：一部の試掘溝にて奈良時代の溝跡、土壙、ピットが検出され、それらに伴い須恵器・土師器が出土した。

調査後措置：検出された遺構は盛土保存し、工事実施。



Fig.42 杉寺遺跡 (1/5,000)



PL.38 作業状況

VII. 平成9年度の調査

Tab.4 平成9年度 町内遺跡確認調査一覧表

No.1

No.	遺跡名	在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	周知外島越地区	上峰町大字堤字二本黒木 4133番地、4112番地2、 4127番地、4129番地、 4130番地、4138番地、 4139番地、4140番地、 4142番地、4151番地、 4152番地、4146番地1 上峰町大字堤字三本黒木 4529番地153、4529番地154、 4529番地155、4529番地166、 4529番地167、4529番地216、 4529番地217 上峰町大字堤字谷渡 4529番地165	株式会社 ダイコーバイリング	事務所・資材置き 場の建設	13,892	150	平成9年7月3日	遺構・遺物は検出さ れなかつた。	工事実施。	
2	坊所二本谷遺跡(1)	上峰町大字坊所字二本谷 2458番地2	有限会社おだ総合開発	分譲宅用地の造成	2,502	180	平成9年7月18日	遺構・遺物は検出さ れなかつた。	工事実施。	
3	栗山遺跡	上峰町大字堤字 1980番地7地内	NTT九州移動通信網株式 会社	通信用鉄塔、中継 局の建設	300	30	平成9年8月19日 平成9年8月20日 平成9年8月21日	遺構・遺物は検出さ れなかつた。	工事実施。	
4	三上遺跡	上峰町大字坊所字三上 3195番地1、3196番地1	個人	資材置場用地の造 成	1,925	150	平成9年8月27日	遺構・遺物は検出さ れなかつた。	工事実施。	
5	周知外 上坊所地区(1)	上峰町大字坊所字上坊所 412番地1、412番地10、 412番地11、414番地1、 414番地2、414番地3、 415番地、416番地1、 416番地2、416番地3	三義基典業協同組合	店舗・事務所・駐 車場用地の造成	9,806	810	平成9年9月29日 平成9年9月30日 平成9年10月1日	遺構・遺物は検出さ れなかつた。	工事実施中。	
6	坊所一本谷遺跡(1)-1	上峰町大字坊所字七本谷 1583番地5	個人 (取引後は、店舗建設予 定)	店舗・駐車場の建 設	1,413	120	平成9年10月2日	奈良・平安期の建物 跡・住居跡を検出した。 建物予定部分を 中心に400m ² に ついて遺構配置 確認調査(内建物 部分200m ² につ いては本調査実 施)後工事実施		
7	谷渡古墳群(1)-1	上峰町大字堤字谷渡 1609番地2、1610番地18、 1610番地21	有限会社中原工業	工場用地の造成	2,980	240	平成9年10月4日	土壌状の遺構3基を 検出した。	土壤が検出され た試掘溝を中心 に200m ² につい て追加確認調査 実施後工事実施 中。	
8	周知外 上坊所地区(2)	上峰町大字坊所字上坊所 285番地1、285番地2、 285番地3、285番地4	上峰町	駐車場用地の造成	4,117	330	平成9年10月6日	遺構・遺物は検出さ れなかつた。	工事実施。	

Tab.4 平成9年度 町内遺跡確認調査一覧表

No.2

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
9	坊所一本谷遺跡(2)	上峰町大字坊所字七本谷 1531番地、1532番地1、 1532番地2、1532番地3、 1532番地4、1533番地1、 1533番地2、1534、 1535番地イ、1535番地ロ	有限会社NBC	分譲宅用地の造成	3,469	300	平成9年10月29日 平成9年12月15日	遺構・遺物は検出されなかつた。	工事実施。	
10	周知外 下津毛地区	上峰町大字坊所字下津毛 197番地1、197番地2	福音商事・個人	分譲宅用地の造成	6,004	450	平成9年11月4日 平成9年11月5日 平成9年11月6日	遺構・遺物は検出されなかつた。	工事実施中。	
11	坊所一本谷遺跡(1)-1	上峰町大字坊所字七本谷 1583番地5	個人の土地取引 取引後は、店舗建設予定	店舗・駐車場建設	1,413	400	平成9年11月5日 平成9年11月6日 平成9年11月7日 平成9年11月10日 平成9年11月11日 平成9年11月12日 平成9年11月13日 平成9年11月17日 平成9年11月18日	奈良・平安期の窓穴 式住居跡4軒、壇立 柱建物跡1棟、その 他ピットを検出。	工事実施予定。	坊所一本谷 遺跡(1)の結果を 受けた 建物予定地 とその周辺 400mについ ての遺構配 置確認調 査。
12	谷渡古墳群(1)-2	上峰町大字堤字谷渡 1609番地2、1610番地18、 1610番地21	有限会社中原工業	工場用地の造成	2,980	200	平成9年11月19日 平成9年11月20日 平成9年11月21日	先の確認調査で検出 された土塁状の遺構 3基のうち2基は樹 木跡で、その他の遺 構は検出されなかつ た。	工事実施中。	谷渡古墳群 (1)の結果を 受け、土塁 を検出し た。試掘 を中心とし た200mの追 加確認調 査。
13	谷渡古墳群(1)-3	上峰町大字堤字谷渡 1609番地2、1610番地14、 1610番地18、1610番地19、 1610番地20、1610番地21、 1610番地22、1614番地21、 6161番地2	有限会社中原工業	工場用地の造成	8,269	450	平成9年11月19日 平成9年11月20日 平成9年11月21日	遺構・遺物は検出されなかつた。	工事実施中。	谷渡古墳群 (1)の事業面 積の拡張 (5,239m ²) 分
14	谷渡古墳群(2)	上峰町大字堤字谷渡 1651番地3、31651番地240、 1651番地241、1651番地242、 1651番地243	株式会社寛平	資材置場用地造成	5,398	435	平成9年11月27日	遺構・遺物は検出されなかつた。	工事実施予定。	
15	坊所二本谷遺跡(2)	上峰町大字坊所字二本谷 2458番地6	個人	店舗用地造成	845	90	平成9年11月26日	遺構・遺物は検出されなかつた。	工事実施。	

Tab.4 平成9年度 町内遺跡確認調査一覧表

No.3

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(㎡)	調査面積(㎡)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
16	周知外 屋形原地区	上峰町大字堤字二本松 3079番地1	フランスペット佐賀工場	土砂採取	22,933	70	平成9年12月3日 平成9年12月4日 平成10年1月21日	古墳4基、弥生後期の遺物が包含を検出。弥生式土器片、内輪埴輪などが出土した。	本調査に向け調整中。	
17	周知外 下坊所地区	上峰町大字坊所字下坊所 1758番地	福幸商事	宅地造成	5,130	330	平成9年12月16日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中。	
18	谷渡古墳群(3)	上峰町大字堤字谷渡 1651番地34、1651番地35、 1651番地37、1651番地244	個人	宅地造成	2,989	330	平成9年12月24日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定。	
19	周知外 谷渡地区	上峰町大字堤字谷渡 1651番地77	中島組	採石場	3,265	190	平成10年2月13日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定。	
20	杉寺遺跡	上峰町大字坊所字西峰 2781番地	個人	土地取引条件	800	550	平成10年3月16日 平成10年3月17日 平成10年3月18日 平成10年3月18日 平成10年3月19日 平成10年3月23日	奈良朝の堅穴式住居跡7軒、土壙13基、中世道路2条を検出。東唐器、土師器、中世土器などが出土した。	土地充却検討中。 開発予定地内の遺構配置確認調査。遺構は盛土保存。	

上峰町全図



Fig.43 平成9年度 確認調査地位図 (1/50,000)

H9-1

遺跡名：周知外 烏越地区

調査地：上峰町大字堤字二本黒木、三本黒木、谷渡

工事内容：事務所・資材置場建設工事

工事面積：13,892 m²

調査面積：150 m²

調査時期：平成9年7月3日

立地と環境：調査対象区域は、町北部の上峰町大字堤

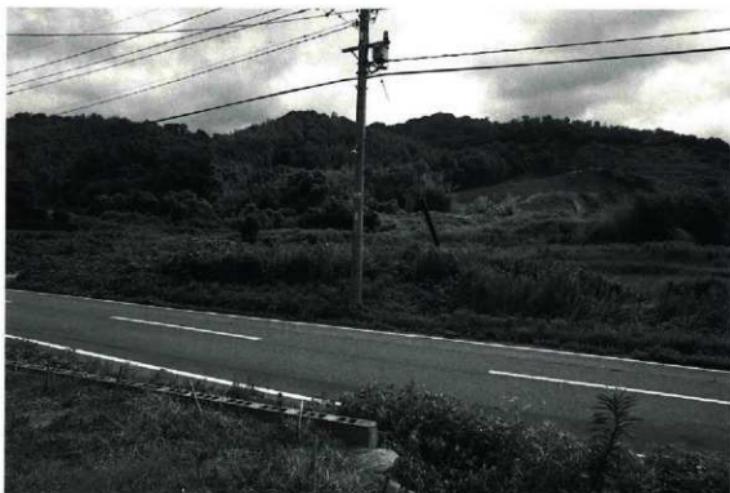
字二本黒木、三本黒木、谷渡にまたがる地域に所在している。鎮西山南西の山麓が谷底平野に移行する部分、標高45m～50m付近に位置している。

遺構・遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.44 周知外 烏越地区 (1/5,000)



PL.39 調査地遠景（南西から）

H9-2

遺跡名：坊所二本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字二本谷

工事内容：分譲宅用地造成工事

工事面積：2,502 m²

調査面積：180 m²

調査時期：平成9年7月18日

立地と環境：坊所二本谷遺跡は上峰町大字坊所字二本

谷に所在し、町のほぼ中央部井手口丘陵

の西側を占有する集落遺跡である。調査対象区域は、井手口丘陵の南端、標高13m付近に位置して

おり、資材置場として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.45 坊所二本谷遺跡(1) (1/5,000)



PL.40 作業状況

H9-3

遺跡名：栗山遺跡

調査地：上峰町大字堤字四本谷

工事内容：通信用鉄塔、中継局建設工事

工事面積：300 m²

調査面積：30 m²

調査時期：平成9年8月19、20、21日

立地と環境：栗山遺跡は町北部、上峰町大字堤字四本

谷に所在し、二塚山丘陵の南部を占有す

る古墳時代の墳墓跡である。調査対象区域は二塚山丘陵から派生する一支丘の尾根部、標高36m付近に位置している。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.46 栗山遺跡 (1/5,000)



PL.41 作業状況

H9-4

遺跡名：三上遺跡

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：資材置場用地造成工事

工事面積：1,925 m²

調査面積：150 m²

調査時期：平成9年8月27日

立地と環境：三上遺跡は上峰町大字坊所字三上、西峰

に所在し、町の南西部目達原丘陵上に位

置する绳文時代から奈良・平安時代の集落遺跡である。本町と三田川町にまたがる目達原丘陵は、

戰時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されている。調査対象地区はこの目達原丘陵の

中央部標高15m付近に位置しており、畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.47 三上遺跡 (1/5,000)



PL.42 調査地全景（北東から）

H9-5

遺跡名：周知外 上坊所地区(1)

調査地：上峰町大字坊所字上坊所

工事内容：店舗・事務所・駐車場用地造成工事

工事面積：9,806 m²

調査面積：810 m²

調査時期：平成9年9月29、30、10月1日

立地と環境：調査対象区域は上峰町大字坊所字上坊所

地区に所在し、切通川西岸の沖積地標高

7m付近に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.48 周知外 上坊所地区(1) (1/5,000)



PL.43 調査地近景（南西から）

H9-6・11

遺跡名：坊所一本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字七本谷

工事内容：店舗・駐車場建設工事

工事面積：1,413 m²

調査面積：120 m² 追加調査 400 m²

調査時期：平成9年10月2日 追加調査 平成

9年11月5~7、10~13、17、18日

立地と環境：坊所一本谷遺跡は、町のほぼ中央部上峰

町大字坊所字一本谷、七本谷に所在し、二塚山丘陵から井手口地区へ延びる丘陵上に位置する弥生

時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。調査対象区域は三田川町との境界付近郡境地区の

標高20m付近に位置しており、宅地として利用されていた。

遺構と遺物：奈良・平安期の建物跡・住居址が検出された。

調査後措置：10月2日の調査で遺構が検出された部分を中心に400 m²について遺構配置確認調査を追加実施。

住居址4軒、壠立柱建物跡1棟、ピットが検出された。建物部分200 m²について本調査を実施。調査終了後工事実施。



Fig.49 坊所一本谷遺跡(1) (1/5,000)



PL.44 遺構検出状況 (南西から)

H9-7-12-13

遺跡名：谷渡古墳群(1)

調査地：上峰町大字堤字谷渡

工事内容：工場用地造成工事

工事面積：2,980 m² 追加面積 5,239 m²

調査面積：240 m²・200 m² 追加調査面積 450 m²

調査時期：平成9年10月4日 追加調査 平成9年11月19~21日

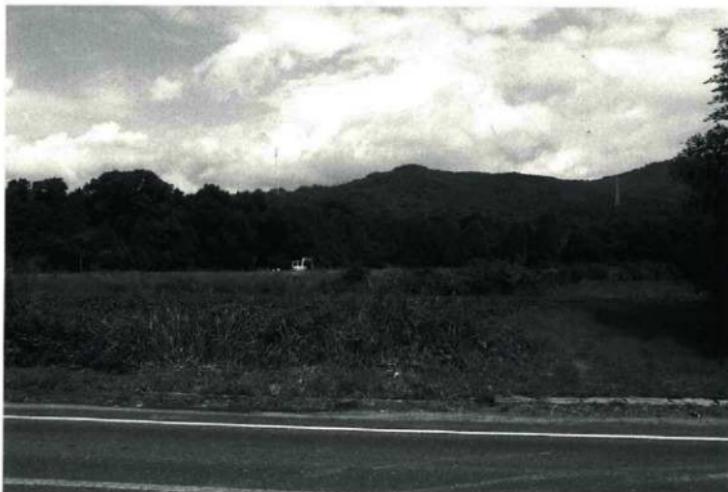
立地と環境：谷渡古墳群は町北部、上峰町大字堤字谷渡に山麓部から丘陵部にかけて所在する古墳群である。調査対象区域は中原町との町境付近の丘陵部、標高45m~50m付近に位置しており、畑として利用されていた。

遺構と遺物：土壙1基を検出した。追加調査では遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：10月4日の調査後、工場用地拡大に伴い11月19日から追加調査を実施。前回の調査で土壙が検出された試掘溝を中心に200 m²について詳細調査をあわせて実施。検出された遺構は盛土保存し、工事実施。



Fig.50 谷渡古墳群(1) (1/5,000)



PL.45 調査地全景（南東から）

H9-8

遺跡名：周知外 上坊所地区(2)

調査地：上峰町大字坊所字上坊所

工事内容：駐車場用地造成工事

工事面積：4,117 m²

調査面積：330 m²

調査時期：平成9年10月6日

立地と環境：調査対象区域は上峰町大字坊所字上坊所

地区に所在し、切通川西岸の沖積地標高

6m付近に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.51 周知外 上坊所地区(2) (1/5,000)



PL.46 調査地近景（北東から）

H9-9

遺跡名：坊所一本谷遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字七本谷

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：3,467 m²

調査面積：300 m²

調査時期：平成9年10月29日、12月15日

立地と環境：坊所一本谷遺跡は、町のほぼ中央部上峰

町大字坊所字一本谷、七本谷に所在し、

二塚山丘陵から井手口地区へ延びる丘陵上に位置する弥生時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。調査対象区域は国道34号線北側の三田川町との境界付近にあり、丘陵内の小谷部標高19m付近に位置しており、宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.52 坊所一本谷遺跡(2) (1/5,000)



PL.47 作業状況

H9-10

調査地：周知外 下津毛地区

調査地：上峰町大字坊所字下津毛

工事内容：分譲宅地・共同住宅用地造成工事

工事面積：6,004 m²

調査面積：450 m²

調査時期：平成9年11月4、5、6日

立地と環境：調査対象区域は上峰町大字坊所字下津毛

に所在し、外記溜池付近を谷頭とし下津

Fig.53 周知外 下津毛地区 (1/5,000)

毛丘腰と目連原丘陵の間に発達する谷底平野、標高 8m 付近に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



PL.48 作業状況

H9-14

遺跡名：谷渡古墳群(2)

調査地：上峰町大字堤字谷渡

工事内容：資材置場用地造成

工事面積：5,898 m²

調査面積：435 m²

調査時期：平成9年11月27日

立地と環境：谷渡古墳群は町北部、上峰町大字堤字谷

渡に山麓部から丘陵部にかけて所在する

古墳群である。調査対象区域は筑西山南東部の丘陵部、標高 60m～70m付近に位置しており、みかん畑などとして利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施中。



Fig.54 谷渡古墳群(2) (1/5,000)



PL.49 作業状況

H9-15

遺跡名：坊所二本谷遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字二本谷

工事内容：店舗用地造成

工事面積：845 m²

調査面積：90 m²

調査時期：平成9年11月26日

立地と環境：坊所二本谷遺跡は上峰町大字坊所字二本

谷に所在し、町のほぼ中央部井手口丘陵

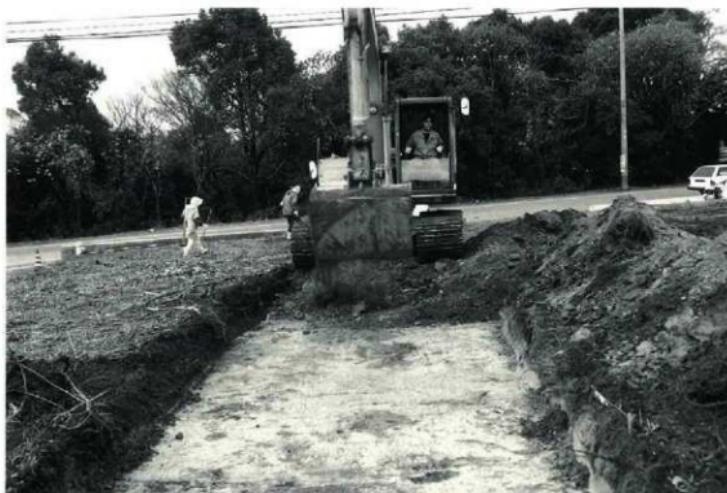
の西側を占有する集落遺跡である。調査対象区域は、井手口丘陵の南端、標高14m付近に位置して
おり、資材置場として利用されていた。

遺構と遺物：遺物・遺構は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.55 坊所二本谷遺跡(2) (1/5,000)



PL.50 作業状況

H9-16

遺跡名：周知外 屋形原地区

調査地：上峰町大字堤字二本松

工事内容：土砂採取

工事面積：22,933 m²

調査面積：70 m²

調査時期：平成9年12月3、4日、平成10年1月21日

立地と環境：調査対象区域は、町北部、上峰町大字堤字二本松の東脊振村との境界に立地する標高 35m～60m

付近の山麓部に位置する。山林として利用されていた。

遺構と遺物：古墳4基、弥生後期の遺物が包含を検出。弥生式土器片、円筒埴輪などが出土した。

調査後措置：事業中止。堤二本松遺跡として登録された。

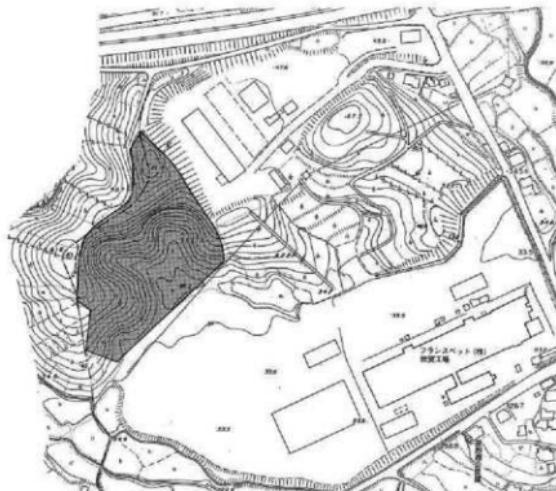


Fig.56 周知外 屋形原地区 (1/5,000)



PL.51 古墳石室跡状況



PL.52 包含層遺物出土状況（北東から）

H9-17

遺跡名：周知外 下坊所地区

調査地：上峰町大字坊所字下坊所

工事内容：宅地造成

工事面積：5,130 m²

調査面積：330 m²

調査時期：平成9年12月16日

立地と環境：調査対象区域は上峰町大字坊所字下坊所

地区に所在し、下坊所の丘陵南東部の沖

積地標高5m付近に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施中。



Fig.57 周知外 下坊所地区 (1/5,000)



PL.53 作業状況

H9-18

遺跡名：谷渡古墳群(3)

調査地：上峰町大字堤字谷渡

工事内容：宅地造成

工事面積：2,989 m²

調査面積：330 m²

調査時期：平成9年12月24日

立地と環境：谷渡古墳群は町北部、上峰町大字堤字谷

渡に山麓部から丘陵部にかけて所在する

古墳群である。調査対象区域は鎮西山南東部の丘陵部、標高50m～65m付近に位置しており、みかん畠などとして利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

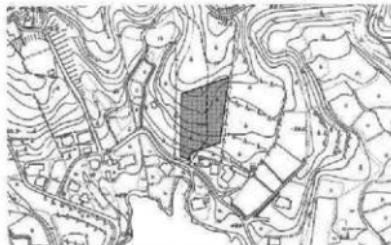


Fig.58 谷渡古墳群(3) (1/5,000)



PL.54 作業状況

H9-19

遺跡名：周知外 谷渡地区

調査地：上峰町大字堤字谷渡

工事内容：採石場

工事面積：3,265 m²

調査面積：190 m²

調査時期：平成10年2月13日

立地と環境：調査対象区域は、町北部の上峰町大字堤

字谷渡に所在し、鎮西山の南麓から派生

する尾根上、標高90m～100m付近に位置しており、みかん畑などとして利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施予定。



Fig.59 周知外 谷渡地区 (1/5,000)



PL.55 調査地遠景（南から）

H9-20

遺跡名：杉寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：土地取引条件

工事面積：800 m²

調査面積：550 m²

調査時期：平成10年3月16～19、23日

立地と環境：杉寺遺跡は上峰町大字坊所字杉寺に所在

し、町のほぼ中南部上坊所地区西部の旧
「新堤」付近を谷頭とする谷水田部分とその東西両側の坊所丘陵と目連原丘陵の一部。標高 6m～
11m 付近一帯に広がる集落遺跡である。今回の調査対象区域は旧「新堤」付近を谷頭とする谷水田
の西側目連原丘陵東辺部分、標高 10m 付近に位置し、畑として利用されていた。

遺構と遺物：奈良期の竪穴住居跡 7軒、土壙 13 基、中世溝跡 2 条を検出。須恵器、土師器、中世土器などが出土した。

調査後措置：事業中止。



Fig.60 杉寺遺跡 (1/5,000)



PL.56 遺構検出作業状況

VII. 平成10年度の調査

Tab.5 平成10年度 町内遺跡確認調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	周知外 下津毛地区(1)	上峰町大字坊所字下津毛 135番地1	有限会社朝日	中古車展示場用地 造成及び事務所等 建設	2,489	240	平成10年4月27日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
2	周知外 上坊所地区	上峰町大字坊所字上坊所 288番地4、288番地5、 288番地6	個人	宅地、病院用地造成	2,064	180	平成10年6月29日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
3	三上遺跡	上峰町大字坊所字三上 3194番地1	平野地所	分譲住宅地造成	964	90	平成10年7月16日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
4	谷渡古墳群	上峰町大字堤字谷渡 1609番地1、1610番地1	個人事業所	店舗用地造成及び 店舗の建設	3,272	300	平成10年7月28日 平成10年7月29日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
5	杉寺遺跡	上峰町大字坊所字西峰 2781番地	個人	共同住宅建設用地 造成	850	100	平成10年9月22日 平成10年9月25日 平成10年9月26日	平成9年3月に実施した遺構記載地認調査において検出された住居跡・土器のうち、住居跡2軒、土塊1基を発掘し、時期を特定できる遺物を採取するとともに遺構の残存状況の確認を行った。 土器類・須恵器が出土した。	工事実施。	平成10年3月(杉寺遺跡)に実施した遺構記載地認調査において検出された住居跡・土器のうち、住居跡2軒、土塊1基を発掘し、時期を特定できる遺物を採取するとともに遺構の残存状況の確認を行った。 土器類・須恵器が出土した。
6	周知外 下津毛地区(2)	上峰町大字坊所字下津毛 148番地1、149番地1	嘉徳無限株式会社	田園の盛土による 店舗・事務所・駐 車場用地造成工事 及び店舗・事務所 他の建設	9,479	810	平成10年11月5日 平成10年11月6日 平成10年11月7日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施。	
7	横西山古墳分布調査	上峰町大字堤地内	町民「憩いの森」として整備が進む同山周辺に 分布する古墳の位置を測量し、今後の整備事業と文化財の保護との調整を図る上での基礎資料とする。				平成11年3月23日 平成11年3月25日 平成11年3月27日	笠山道沿線に分布する古墳23基を確認、位置の測量を実施した。		古墳分布調査

上峰町全図



Fig.61 平成10年度 確認調査地位置図 (1/50,000)

H10-1

遺跡名：周知外 下津毛地区(1)

調査地：上峰町大字坊所字下津毛

工事内容：中古車展示場及び事務所等建設

工事面積：2,489 m²

調査面積：240 m²

調査時期：平成10年4月27日

立地と環境：調査対象区域は上峰町大字坊所字下津毛に

所在し、切通川西岸の沖積地標高8m付近

に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.62 周知外 下津毛地区(1) (1/5,000)



PL.57 作業状況

H10-2

遺跡名：周知外 上坊所地区

調査地：上峰町大字坊所字上坊所

工事内容：病院用地造成

工事面積：2,064 m²

調査面積：180 m²

調査時期：平成10年6月29日

立地と環境：調査対象区域は上峰町大字坊所字上坊所に

所在し、坊所丘陵東部の沖積地標高6m付

近に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.63 周知外 上坊所地区 (1/5,000)



PL.58 調査地遠景（西から）

H10-3

遺跡名：三上遺跡

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：分譲住宅造成

工事面積：964 m²

調査面積：90 m²

調査時期：平成10年7月16日

立地と環境：三上遺跡は上峰町大字坊所字三上、西峰に

所在し、町の南西部目達原丘陵上に位置す

る绳文時代から奈良・平安時代の集落遺跡である。本町と三田川町にまたがる目達原丘陵は、戦時中

の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されている。調査対象地区はこの目達原丘陵の中央部標

高15m付近に位置しており、畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

調査後措置：工事実施。



Fig.64 三上遺跡 (1/5,000)



PL.59 作業状況

H10-4

遺跡名：谷渡古墳群

調査地：上峰町大字堤字谷渡

工事内容：店舗用地造成工事及び店舗の建設

工事面積：3,272 m²

調査面積：300 m²

調査時期：平成10年7月28日

立地と環境：谷渡古墳群は町北側、上峰町大字堤字谷渡

に山麓部から丘陵部にかけて所在する古墳

群である。調査対象区域は中原町との町境付近の丘陵部、標高46m付近に位置しており、畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.65 谷渡古墳群 (1/5,000)



PL.60 作業状況

H 10 - 5

遺跡名：杉寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：共同住宅用地造成

工事面積：850 m²

調査面積：100 m²

調査時期：平成10年9月22、25、26日

立地と環境：杉寺遺跡は上峰町大字坊所字杉寺に所在し、

町のほぼ中南部上坊所地区西部の旧「新

堤」付近を谷頭とする谷水田部分とその東西両側の坊所丘陵と日達原丘陵の一部、標高 6m～11m 付近一帯に広がる集落遺跡である。今回の調査対象区域は旧「新堤」付近を谷頭とする谷水田の西側日達原丘陵東辺部分、標高 10m 付近に位置し、畑として利用されていた。

遺構と遺物：平成9年度に実施した確認調査において検出された住居跡・土壙について住居跡2軒、土壙1基を発掘し時期を特定できる遺物を採取するとともに遺構の残存状況の確認を行った。奈良時代の土師器・須恵器が出土した。

調査後措置：検出された遺構は盛土保存し、工事実施。



Fig.66 杉寺遺跡 (1/5,000)



PL.61 遺構検出状況

H10-6

遺跡名：周知外 下津毛地区(2)

調査地：上峰町大字坊所字下津毛

工事内容：田面の盛土による店舗・事務所・駐車場用地造成工事及び店舗・事務所他建設

工事面積：9,479 m²

調査面積：810 m²

調査時期：平成10年11月5～7日

立地と環境：調査対象区域は上峰町大字坊所字下津毛に

所在し、下津毛丘陵東部の沖積地標高8m付近に位置し、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.67 周知外 下津毛地区(2) (1/5,000)



PL.62 作業状況

H10-7

遺跡名：鎮西山古墳分布測量調査

調査地：上峰町大字堤地内

工事内容：町内『憩いの森』として整備が進む同山周辺に分布する古墳の位置を測量し、今後の整備事業と文化財の保護との調整を図る上での基礎資料とする。

工事面積：

調査面積：

調査時期：平成11年3月23、25、27日

立地と環境：鎮西山は町北部、上峰町大字堤に所在する標高202mの独立丘で、山麓には小円墳を主体とする古墳群が点在している。また、中世の山城としても知られている。

遺構と遺物：登山道沿線に分布する古墳23基を確認、位置の測量を実施した。

調査後措置：



PL.63 作業状況

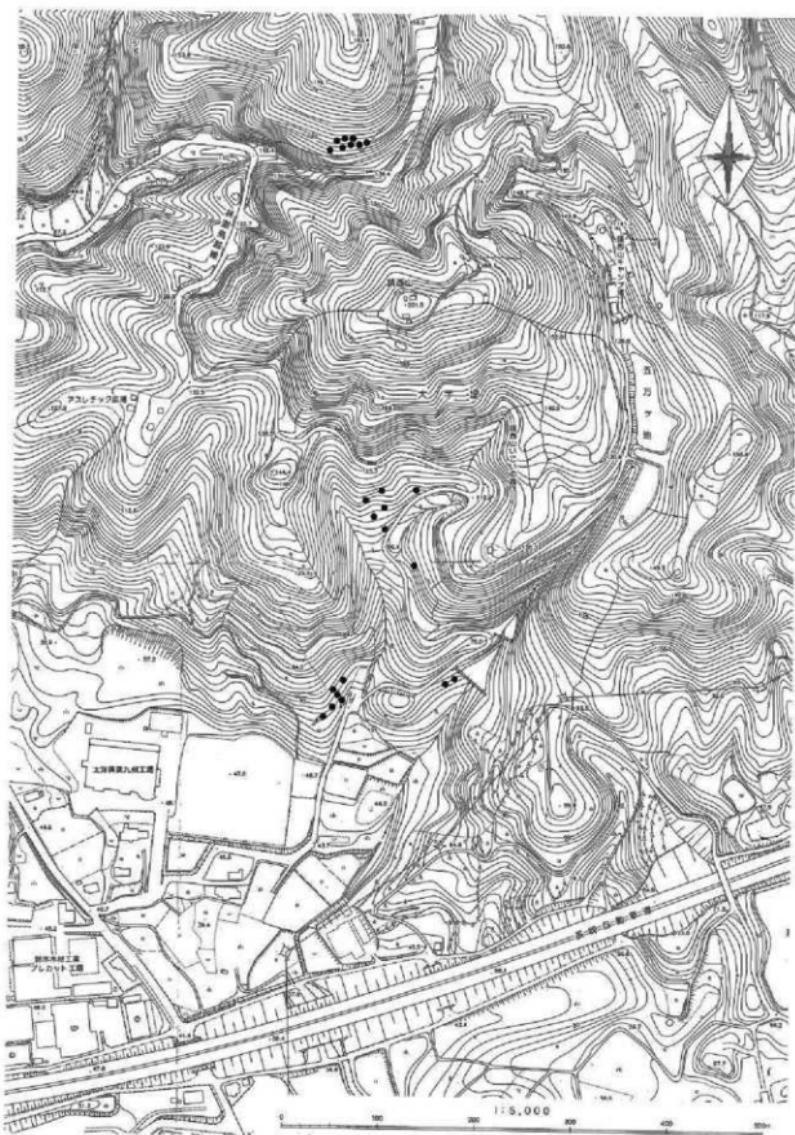


Fig.68 鎮西山古墳分布測量調査 (1/50,000)

報告書抄録

ふりがな	かみみねちょうないいせきかくにんちょうさⅡ						
書名	上峰町内遺跡確認調査Ⅱ						
副書名	上峰町内における開発行為に伴う埋蔵文化財確認調査報告書——平成6年度～平成10年度——						
卷次							
シリーズ名	上峰町文化財報告書						
シリーズ番号	第33集						
編著者名	原田 大介						
編集機関	上峰町教育委員会						
所在地	佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4 上峰町民センター内 Tel 0952-52-3833/Fax 0952-52-3888						
発行年月日	2010年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 ○○°○'○''	東経 ○○°○'○''	調査期間	調査面積m ²	調査原因
町内遺跡	佐賀県三養基郡 上峰町一円	41345			1994.4. 告 2001.3		町内における各種 開発行為
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
町内遺跡	集落跡 墳墓跡 古墳 中世城館後	弥生時代 古墳時代 奈良・平安 時代 中世	竪穴式住居跡 掘立柱建物跡 礎跡・土壙 古墳	弥生式土器片・ 土師器・須恵器・ 埴輪・中世土器			

上峰町文化財報告書第33集
上峰町内遺跡確認調査Ⅱ

平成23年3月18日印 刷

平成23年3月31日発 行

編集
発行 上峰町教育委員会
佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4
印刷 大同印刷株式会社
佐賀県佐賀市久保桑町上和泉1848-20

